

# ネイチャーガイド 東京のチョウ



中央大学・東京大学・パルシステム東京 協働プロジェクト  
市民参加の生き物モニタリング調査

# 世界に誇る市民科学としての東京蝶モニタリング

「生物多様性の保全と持続可能な利用」すなわち「自然との共生」が国際的にも国内でも社会的な目標の一つとなり、市民科学による生物多様性モニタリング、すなわち市民が主体となる科学的な取り組みによる「野生生物調査」が世界的な発展をみせています。市民が野生生物に関するデータを集める取り組みは、欧米では1世紀以上の長い歴史をもっています。その主な対象は鳥類や蝶類など、市民がとくに関心を寄せる身近な生物です。最近になって、IT技術のめざましい発達により、その取り組みは、飛躍的に多くの市民の参加を得るとともに、その科学的な質を高めてきました。昨今では、自ら野外で大量のデータを収集することが難しい生態学研究者が、公開されている市民科学データを用いて研究を進めることも多くなってきました。

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構の研究プロジェクトに参加していた保全生態学研究室（現在、中央大学理工学部人間総合理工学科保全生態学研究室）と東京大学生産技術研究所喜連川研究室は、東京に多くの組合員をもつ生協、パルシステム東京と協働して、2009年から、「いきモニ（いきものモニタリング）」の略称をもつ、東京の蝶を対象とした市民調査「市民参加の生き物モニタリング調査」(<http://butterfly.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/>)を通じて、市民科学のもつ科学と参加における意義を実践的に確かめる研究を進めてきました。

生物多様性の保全が社会的な課題となる一方、地球温暖化が急速に進行する中で都市気候（ヒートアイランド）により一歩先に温暖化を経験している大都市での生物相変化の正確な把握は、これら地球環境問題を科学的に認識するための科学的課題の一つとなっています。科学と広範な市民の参加の統合をめざし、パルシステム東京と手を携えて私たち研究者が8年間続けてきた取り組みは、東京の蝶の現状を的確に反映した科学的データの蓄積とモニターとして参加した方たちの認識・関心の深まり・広がりという、貴重な成果をあげることができました。

「いきモニ」の特徴は、蝶の同定に自信の無い初心者でも、写真を添付してインターネットで調査結果を報告すると、専門家の同定により正しい蝶の種名を知ることができます。そのため、参加すれば誰もが学びつつ、信頼性の高い科学的データをデータベースに投入することができ、科学に貢献できます。データは公開され、市民も研究者も貴重な情報源として、現状分析や研究に用いることができる「公共財」として社会の財産ともなります。

このネイチャーガイドは、そのような一石二鳥・三鳥の効用をもつ市民科学の実践によって蓄積された貴重なデータとモニター（モニタリング参加者）のみなさんが撮影した素晴らしい写真をもじいて作った、東京の蝶を楽しみながら学べるビジュアルなミニ図鑑です。パルシステム東京と私たち研究者が共同編集したこのガイドを手に、これまで蝶に目を向ける機会のなかつたみなさんが蝶の観察を始め、「いきモニ」のデータのいっそうの充実に寄与してくださることを願っています。

研究プロジェクトとしての「いきモニ」はこのネイチャーガイドの出版をもって次の段階に進みます。研究プロジェクトにかかわっている私たち研究者は、「いきモニ」が次のステップ、すなわち、実運用の段階に入っていっそう発展し、世界に名だたる大都市東京の自然の変化を広く社会に発信しつづけることを期待しています。

これまでともに「いきモニ」を実践して下さったすべてのみなさま、とりわけ、パルシステム東京のモニターのみなさまと事務局を担当されたみなさまに深い感謝の意を捧げるとともに、いっそうのプロジェクト発展のための協働へのより広範なみなさまのご参加をお願いいたします。

2015年9月吉日

「いきモニ」プロジェクト研究者を代表して

中央大学理工学部人間総合理工学科保全生態学研究室

鷺谷いづみ

## 目次

いきモニデータベースについて	3
アゲハチョウ科	8
シロチョウ科	19
シジミチョウ科	26
タテハチョウ科	47
セセリチョウ科	86
調査員のページ	99

\*\*\*\*\*

## はじめに

- この冊子には 2009 年から 2014 年までにいきモニデータベース（以下 DB と略）に報告された 29,608 件のデータに含まれる 5 科 86 種のチョウについて種別に掲載しました。
- それぞれの種について、DB への報告年・報告月、報告地域を示しました。報告月は成虫の報告がある月のみ示し、報告地域は区部（23 区）と北多摩（17 市）・南多摩（5 市）・西多摩（4 市 3 町 1 村）の 4 地域で示しました。各項目の着色部分は報告があつたことを示します。
- 幼虫期の食餌植物（食草・食樹）については、東京都本土部でおもに利用していると考えられるものを示しました。
- DB への報告状況や既存文献などの記録から、それぞれの種について東京都本土部での「みつけやすさ」を★で示しました。★：多い、★★：普通、★★★：少ない、★★★★：まれ。地域や時期によって違いはありますが、調査や観察などの目安にしてください。
- チョウの写真は、モニター（市民調査者）のみなさんから 2014 年に報告されたものの中から選定しましたが、一部についてはそれ以前に報告されたものも含まれます。各写真には撮影年月日、撮影地（区市町村まで）、撮影者（調査員番号）を示しました。
- 報告データの詳細やチョウについてよりくわしく知りたいかたはウェブサイト (<http://butterfly.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/> 「いきモニ」で検索)、および巻末に示した参考文献などを参照してください。

# いきモニデータベースについて

## 1. はじめに

いきモニデータベースは、インターネットを経由してチョウの調査データを送信でき、データをデータベースに蓄積・管理でき、データを一般に公開できるシステムとして開発し運用して、東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト「市民参加による生き物モニタリング調査」をサポートしてきました。インターネット上で多数の人に業務を依頼することをクラウドソーシングといいますが、本システムはクラウドソーシングの生物多様性版ということができ、クラウドソーシングの分野で成功した良い事例になりました。本稿では、いきモニデータベースの概要および運用結果について述べていきます。

## 2. いきモニデータベース

いきモニデータベースのシステムは、データアップロードツール、データ品質管理ツール、データ公開ツール、データ解析ツール、データを蓄積して管理・利用できるデータベース、ハードディスクなどのストレージで構成しています。各ツールを利用するには、Web ブラウザから各ツールのページにアクセスします。次に、各ツールについて説明します。

データアップロードツールは、調査員がチョウのデータをアップロードするためのアプリケーションです。実際には図 1 のデータアップロードページからチョウのデータをアップロードします。調査時刻、

天候、チョウの種名、住所等はプルダウンの選択式で用意して、データ入力の簡易化や入力ミスの防止に配慮しました。写真は 3 枚まで添付できるようにしました。データを送信すると、調査項目をデータベースに登録し、画像をストレージに保存します。また、住所は自動的に緯度経度に変換して、住所と緯度経度の両者をデータベースに登録します。

図 1 データアップロードページ

データ品質管理ツールは、アップロードされたデータを整理するために、チョウの専門家（鷺谷研究室のスタッフ）が利用します。主に、種同定の正解・不正解の付与、データの修正、データの信頼性を表す品質フラグの付与を行うことができます。また、作業負担軽減のために、データアップロードページにて選択式だった項目は、データ品質管理ページにおいても選択式としています。

データ公開ツールは、蓄積したデータを公開するためのツールで、誰でも利用することができます。データ検索では、検索条件として種名、年月、画像有無等の条件を設定できます。検索結果は図2のように、データの概要を列挙したリスト形式、撮影した写真の一覧形式、調査地をマップにマークした地図形式で表示することができます。また、検索結果からデータの詳細を閲覧することもできます（図2右下）。データ詳細表示では、調査項目、種同定の正解・不正解、写真、調査地マップを表示します。

リスト

写真

地図

データ詳細

図2 データ公開

データ解析ツールは、チョウの確認種や分布を解析するためのツールで、チョウの専門家が利用します。検索条件として種名、年月、空間範囲等の条件を設定でき、存在確認年表や存在確認頻度グラフ、存在確認分布図として表示できます。このツールによって、種

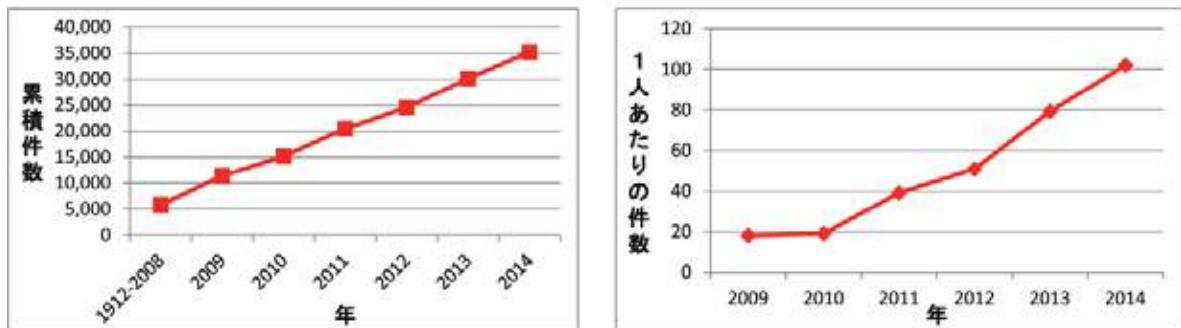
毎の生息の状況や、件数の時系列変化、領域内での種毎の件数比率等を知ることが可能で  
す。また、各図から掘り下げて一つ一つのデータを閲覧できる機能も持っています。

### 3. システムの運用結果

本システムは 2009 年度に構築を行って、2010 年度に運用を開始しました。本章では、  
本システムを運用した結果について述べます。

データのアップロードは図 1 のデータアップロードページから行われましたが、ページ  
のスタイル、レイアウト、データ入力方法については、調査員からの意見をもとに毎年改  
良を行いました。例えば、調査員は同じ日時・場所で複数の個体を調査することが多く反  
復して本ページを利用するため、調査員名、調査員番号、日時、天候、住所、施設名の入  
力に対して、前回入力した値にセットすることで調査員の負担を軽減しました。

2010 年度からの 5 年間の実運用では、図 3(a) のように毎年約 5,000 件のデータがアッ  
プロードされて、過去の調査データを合わせると約 35,000 件がデータベースに登録され  
ました。また、図 3(b) のように 1 人あたりのアップロード件数は年々増加しました。こ  
れにより、データアップロードツールの利用が高まっていることや、調査員におけるモニ  
タリング活動参加のモチベーションが維持されていることを確認しました。



(a) データアップロード件数の累積

(b) 1 人あたりのアップロード件数

図 3 データアップロード件数

調査員がアップロードしたデータには、種名の誤同定が含まれていることがあります。  
そこで、チョウの専門家が本システムのデータ品質管理ツールを用いて、データのクレン  
ジング作業を行いました。図 4 に、調査員の種同定正解率を示します。モニタリングスキ  
ルにおける写真撮影や種同定作業の上達によって、年々正解率が上昇していることがわ  
かりました。この結果は、様々な市民参加型モニタリングにおいて、実施計画の作成や、調  
査員が参加する研修会におけるメニュー作成等に役立つ情報といえるでしょう。

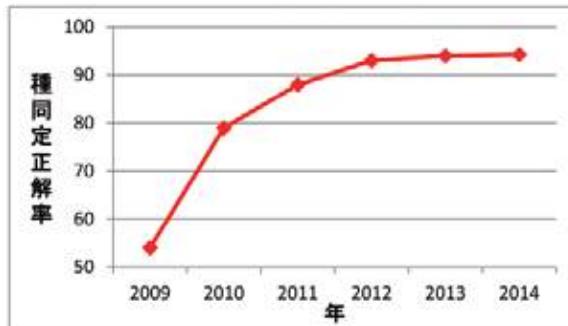


図4 種同定正解率

現在、インターネット上では様々なところでクラウドソーシングが実施されていますが、参加者にインセンティブとして賃金が発生しない場合のクラウドソーシングにおいては、その活動が停滞あるいは衰退するケースが非常に多く見受けられます。しかし、今回のモニタリングプログラムでは終始活発で、各調査員のモニタリングスキルが向上しながら毎年大量のデータが登録されていることから、生物多様性分野におけるクラウドソーシングの成功例といえます。

#### 4. おわりに

本プロジェクトにおいて、いきモニデータベースのシステムを構築し、運用してきました。本システム上に大量のチョウデータを継続的に蓄積でき、そのデータを一般に公開できることから、本プロジェクトにおけるITサイドの当初目標を達成できたと考えています。

今後、このようなシステムが様々な市民参加型モニタリング活動に対して幅広く応用されていくことを期待しています。

安川雅紀（東京大学地球観測データ統融合連携研究機構）  
 喜連川優（国立情報学研究所／東京大学生産技術研究所）

## アゲハチョウ科 Papilionidae

11種確認



アゲハ 夏型オス

2014.9.8 東京都小平市 調査員番号 1310



クロアゲハ 夏型オス

2014.9.3 東京都檜原村 調査員番号 1310



キアゲハ 春型オス

2014.4.17 東京都小平市 調査員番号 287



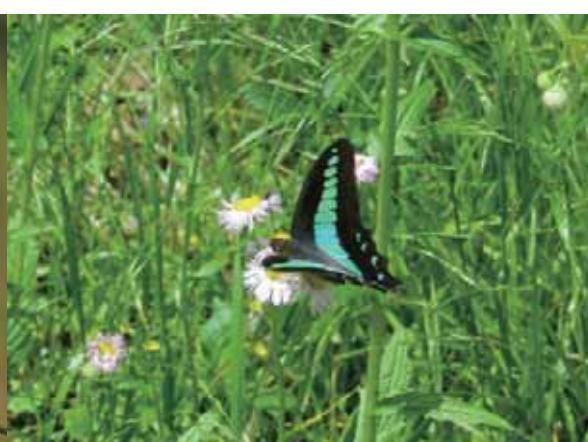
ナガサキアゲハ 夏型メス

2014.7.6 東京都福生市 調査員番号 2434



ジャコウアゲハ 夏型メス

2014.10.9 東京都府中市 調査員番号 137



アオスジアゲハ 春型メス

2014.5.1 東京都文京区 調査員番号 22

## ウスバシロチョウ

*Parnassius citrinarius citrinarius* Motschulsky, 1866



オス : 2014.5.2 東京都あきる野市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

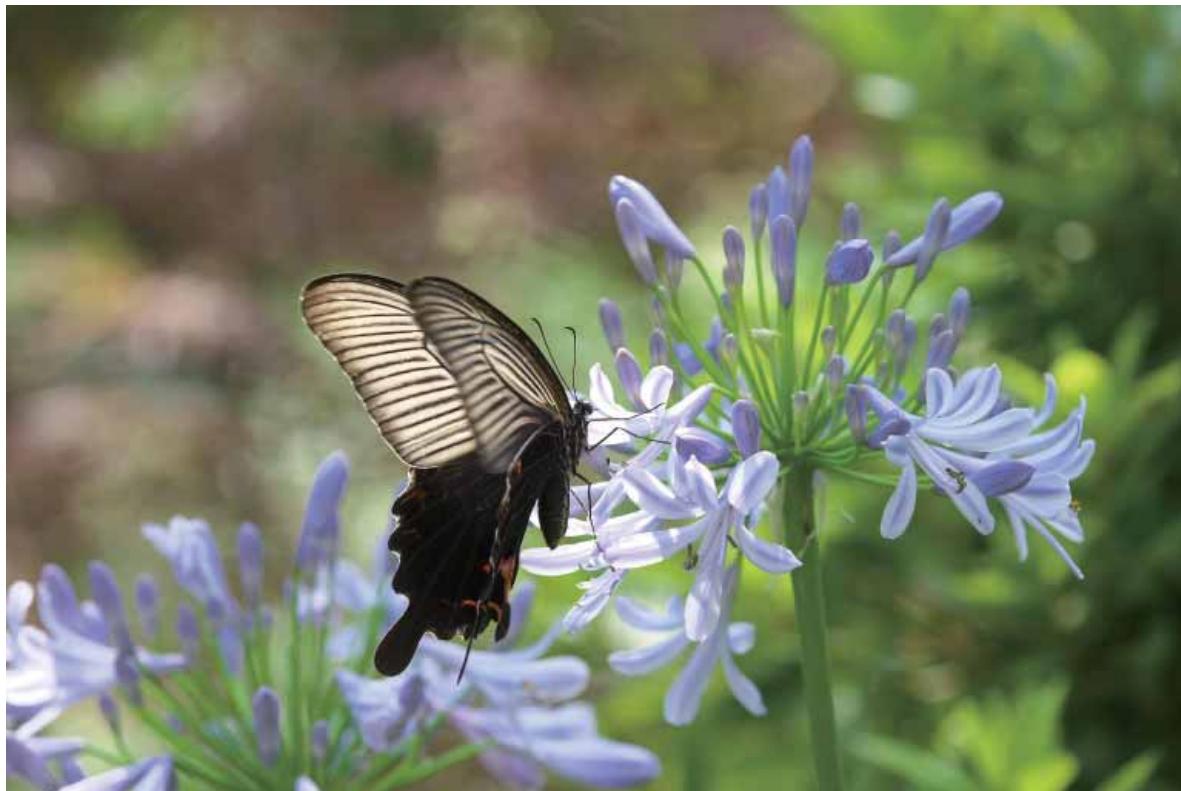
東京では奥多摩や高尾山周辺に生息する山地性の種です。近年では山地周辺に広がる丘陵でもみられるようになり、DBにも報告されました。食草の生える日あたりのよい草地を好みます。晴れた日の日中、ゆるやかに飛び回り各種の花を訪れます。成虫は年1回、5月を中心として発生します。

食餌植物 : ムラサキケマン (ケシ科)

みつけやすさ : ★★

## クロアゲハ

*Papilio protenor demetrius* Stoll, 1782



夏型メス:2014.6.29 東京都足立区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

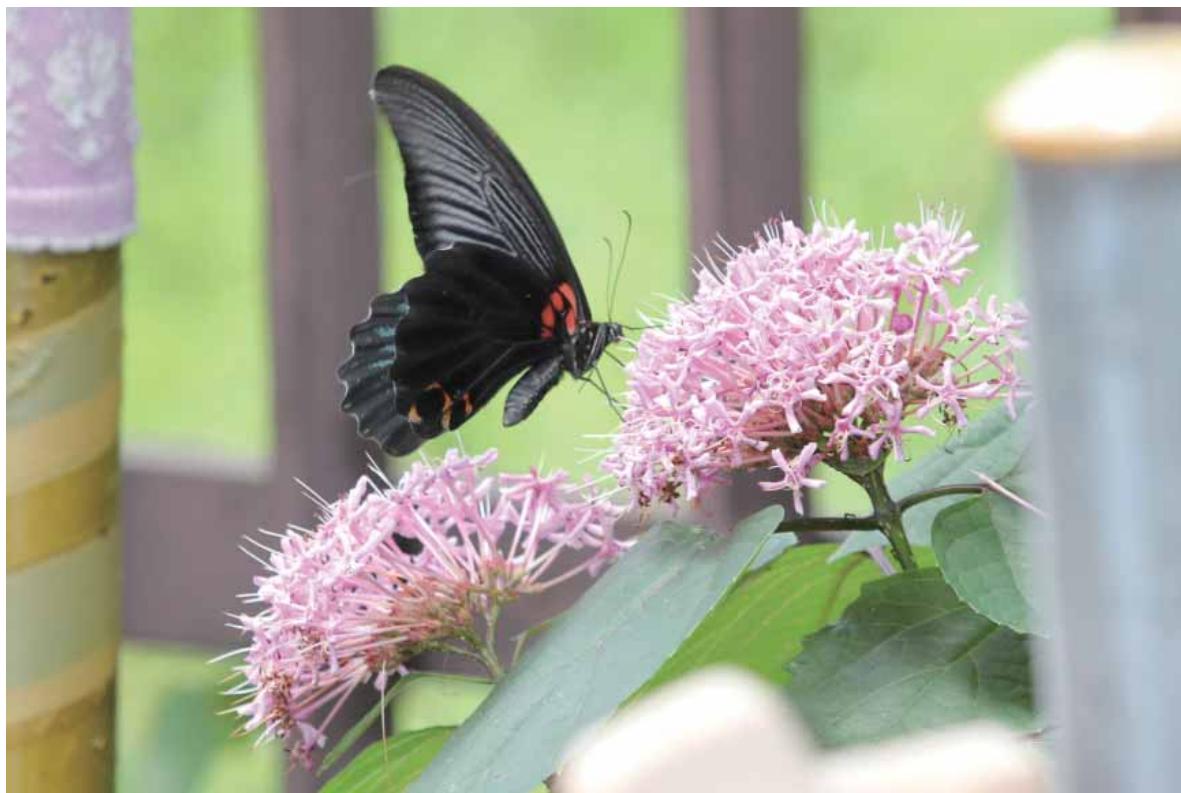
東京では平地から低山地にかけてよくみられます。本来は樹林性の種ですが都市の環境にもよく適応しており、東京の市街地でみられる黒いアゲハチョウの代表ともいえます。DBにも各地から多数報告されましたが、市街地からの報告が多くを占めています。成虫は5月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：サンショウ、カラスザンショウ、ミカン類などミカン科各種

みつけやすさ：★

## ナガサキアゲハ

*Papilio memnon thunbergii* von Siebold, 1824



夏型オス：2014.7.17 東京都小平市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種でかつては近畿地方以南に分布していましたが、2000年頃東京に定着しました。食樹の移動に伴い人為的に持込まれたものが越冬して広がったものと推測されています。都市気候による温暖化（ヒートアイランド）も定着を手助けしていると考えられます。DBには各地から報告されました但件数はそれほど多くありません。成虫は5月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：ユズ、ナツミカンなどミカン科の常緑種

みつけやすさ：★★

## モンキアゲハ

*Papilio helenus nicconicolens* Butler, 1881



夏型メス：2014.7.25 東京都八王子市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で東京では少なく、かつてはおもに夏から秋のはじめにかけてみられましたが、近年では高尾山や周辺の丘陵などでは春にもみかけることが多くなりました。樹林性の種で、市街地でもまとまった樹林がある場所でみかけることもあります。DBには区部からの報告もありました。成虫は5月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：カラスザンショウ、ミカン類などミカン科各種

みつけやすさ：★★★

## オナガアゲハ

*Papilio macilentus* Janson, 1877



春型オス：2014.5.4 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

幼虫はコクサギを食樹として特に好むことから、コクサギの多い山地の渓谷沿いがおもな生息場所ですが、丘陵の谷戸や林縁などでもみられます。区部や多摩地区の平地でも、まとまった樹林やその周りでまれにみられることもあります。DBには区部からの報告もありました。成虫は5月から8月頃にかけて年2回発生します。

食餌植物：コクサギ、サンショウ、カラスザンショウなど（ミカン科）

みつけやすさ：★★

## ジャコウアゲハ

*Byasa alcinous alcinous* (Klug, 1836)

春型オス：2014.5.8 東京都町田市 調査員番号 264

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

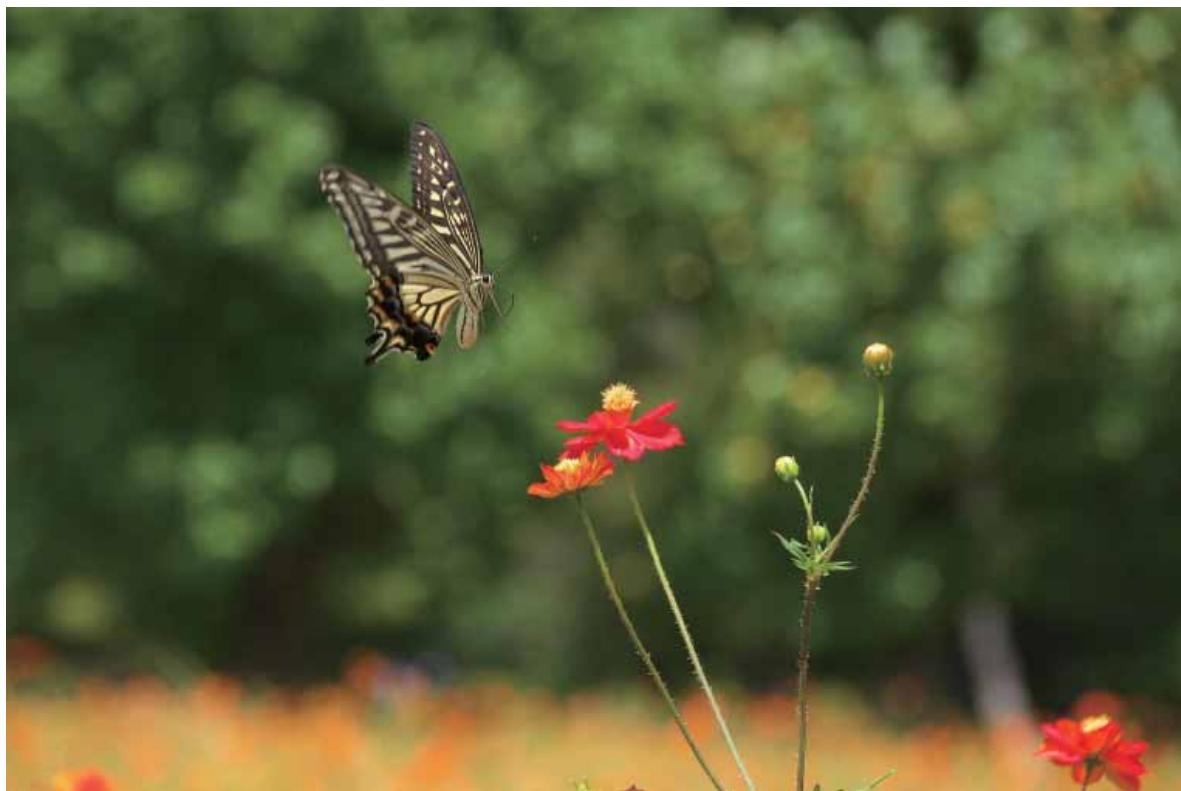
食草の生える草地や林縁などを好み、ゆるやかな軌跡を描いて飛び回ります。食草のある場所が限られているためあまりみかけませんが、成虫は長距離を移動することもあり、思わぬ場所でみかけたり、食草を植えておくと市街地でも突然発生することがあります。DBには局所的ながらも各地から報告されました。成虫は5月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：ウマノスズクサ（ウマノスズクサ科）

みつけやすさ：★★★

# アゲハ

*Papilio xuthus* Linnaeus, 1767



夏型メス：2014.8.7 東京都中央区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

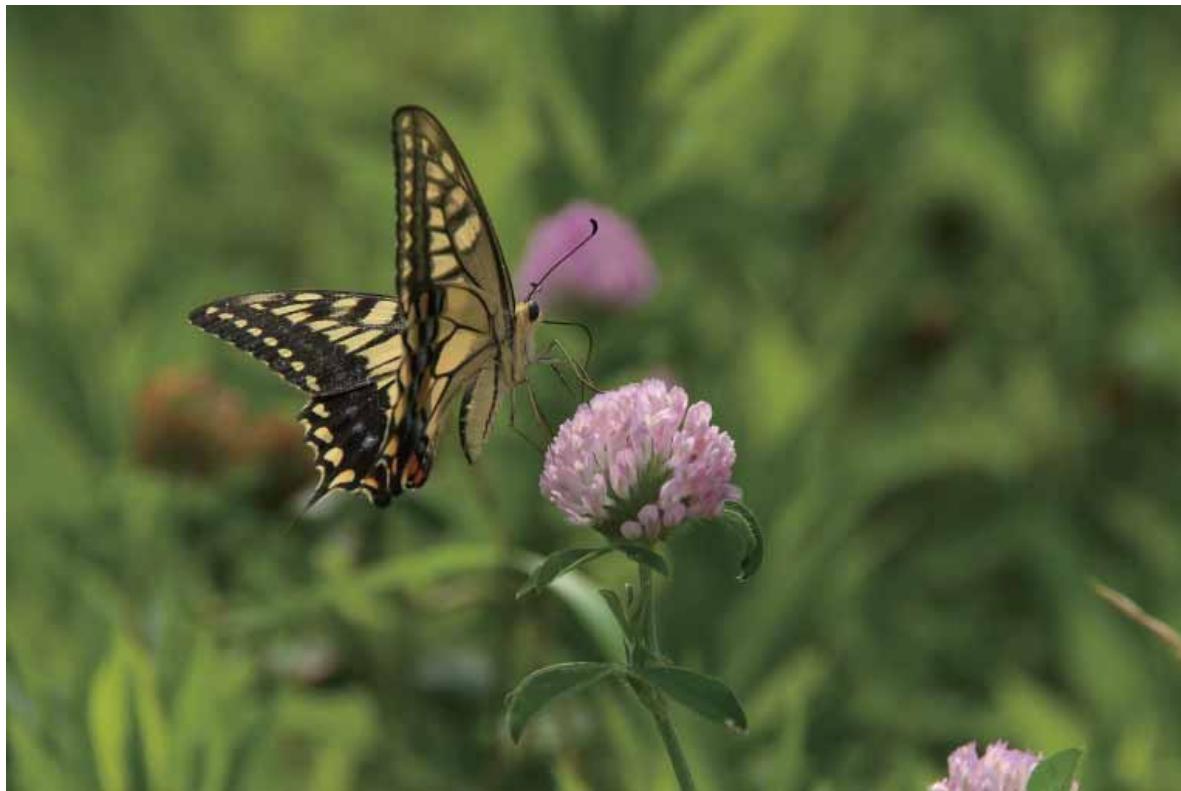
東京では最も普通にみられるチョウのひとつですが、奥多摩などの山地ではそれほど多くはありません。むしろ都市環境によく適応しており、郊外の自然豊かな場所よりも街の中の公園や庭先などに多くみられます。DBには各地から多数報告されましたが、大半は市街地からの報告です。成虫は4月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：サンショウ、カラスザンショウ、カラタチ、ユズなどミカン科各種

みつけやすさ：★

## キアゲハ

*Papilio machaon hippocrates* C. & R. Felder, 1864



夏型オス：2014.8.21 東京都江戸川区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

食草のある明るい草地を好みます。セリの生えた湿地やニンジンなどを栽培している畑の周りなどでよくみかけます。家庭菜園などでセリ科の野菜を育てると時折飛来し、特にアシタバが植えられているとよく発生します。DBには区部を含め各地から報告されました。オスは開けた山頂などでなわばりを持つ習性があります。成虫は4月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：セリ、ミツバ、アシタバ、ニンジン、パセリなどセリ科各種

みつけやすさ：★★

## カラスアゲハ

*Papilio dehaanii dehaanii* C. & R. Felder, 1864



夏型オス：2014.6.29 東京都八王子市 調査員番号 6037

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地にかけての樹林の周辺でよくみられます。まとまった樹林のある市街地や緑の多い住宅地などでもみられることがあり、DBには区部や多摩地区の平地からの報告も少なくありませんでした。幼虫はコクサギも好むのでオナガアゲハといっしょに観察されることもよくあります。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：キハダ、サンショウ、カラスザンショウ、コクサギなど（ミカン科）

みつけやすさ：★★

## ミヤマカラスアゲハ

*Papilio maackii* Ménétriès, 1858

夏型オス（右端はカラスアゲハ）：2014.8.16 東京都奥多摩町 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

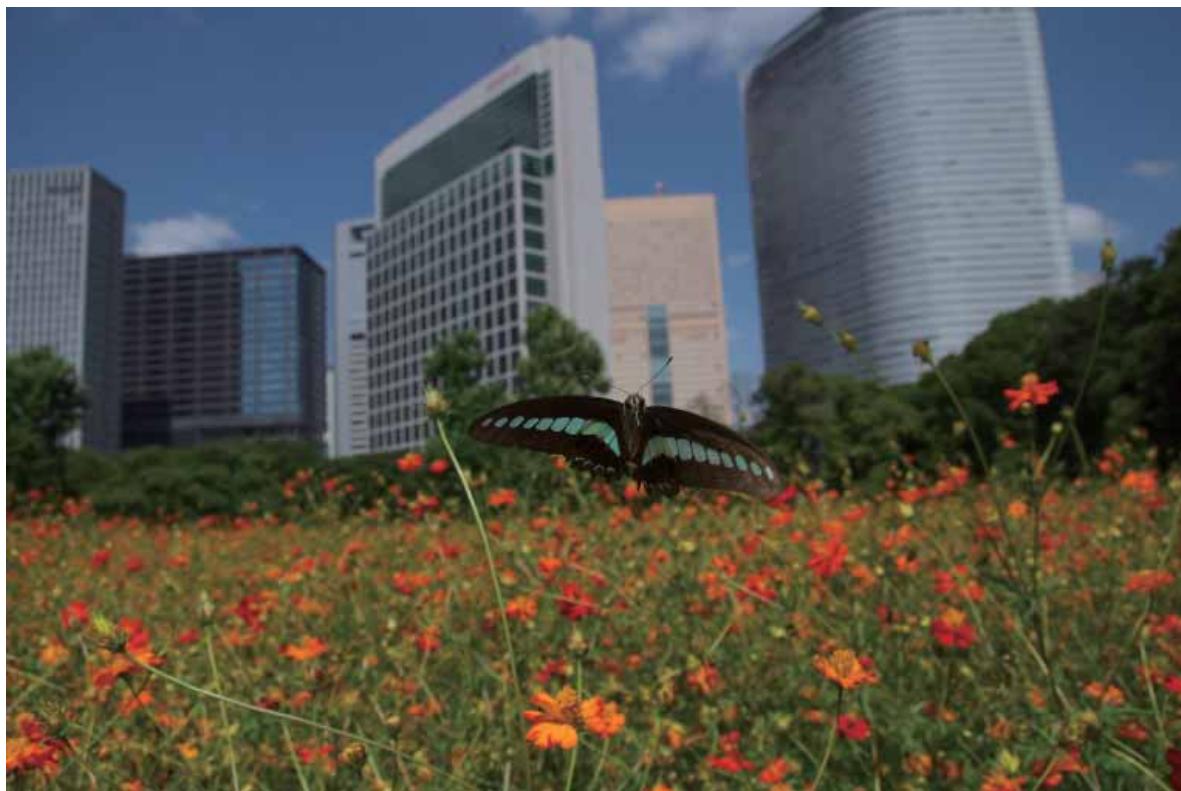
東京では山地性の種で、おもに奥多摩や高尾山周辺などの渓谷沿いでみられます。ミカン科を食樹とするアゲハチョウ類の中では利用できる樹木が限られており、まれにしか生育していないキハダを特に好むことで分布が限られているようです。食樹さえあれば思わぬ場所で発生することもあり、DBには都心からも報告されています。成虫は5月から9月頃にかけて年2回程度発生します。

食餌植物：キハダ、カラスザンショウ（ミカン科）

みつけやすさ：★★★

## アオスジアゲハ

*Graphium sarpedon nippounum* (Fruhstorfer, 1903)



夏型オス：2014.8.7 東京都中央区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の照葉樹を食樹とするため、かつては東京では少ないとされたが、1970年代に公害に強いということから街路樹などにクスノキが多く植えられたため、今では市街地でも普通種となっています。街路樹は定期的に剪定されるため、幼虫の好む新芽や若葉が豊富に供給されることも発生を手助けしていると考えられます。成虫は5月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：クスノキ、タブノキ、ヤブニッケイなど（クスノキ科）

みつけやすさ：★

シロチョウ科 Pieridae

6種確認



モンシロチョウ 夏型交尾  
2014.5.25 東京都豊島区 調査員番号 165



スジグロシロチョウ 夏型交尾  
2014.7.21 東京都福生市 調査員番号 2434



モンキチョウ 夏型メス  
2014.6.9 東京都八王子市 調査員番号 5017



スジグロシロチョウ 春型オス  
2014.4.15 東京都八王子市 調査員番号 287



ツマキチョウ メス  
2014.5.18 東京都あきる野市 調査員番号 2434



キタキチョウ 夏型オス  
2014.7.26 東京都福生市 調査員番号 2434

## キタキチョウ

*Eurema mandarina* (de l'Orza, 1869)



中間型オス：2014.10.25 東京都港区 調査員番号 22

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地まで広く生息しており、DBにも各地から多数報告されました。草地に生えるメドハギやネムノキの芽生えや幼木で発生することが多く、街中では公園などに植栽されたミヤギノハギなどもよく利用しています。年4回程度の発生で、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。

食餌植物：ハギ類、ネムノキなど（マメ科）

みつけやすさ：★

## スジボソヤマキチョウ

*Gonepteryx aspasia niphonica* Bollow, 1930



オス：2013.8.16 東京都奥多摩町 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年
確認時期	1	2	3	4	5	6	月
確認地域	区	北	南	西			

東京では山地性の種で、個体数は少なく近年確実に記録されているのは奥多摩町のみです。DBには奥多摩町から2件報告されました。食樹のクロウメモドキは丘陵や河畔林にも生育しています。西多摩の丘陵で幼虫が確認された例もあることから、ごくまれに成虫が飛来することもあるようです。年1回の発生で、夏に羽化した成虫は秋まで活動して越冬し、翌春に産卵します。

食餌植物：クロウメモドキ（クロウメモドキ科）

みつけやすさ：★★★★★

## モンキチョウ

*Colias erate poliographus* Motschulsky, 1860



夏型メス：2014.8.19 東京都足立区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年
確認時期	1	2	3	4	5	6	7
確認地域	区	北	南	西			月

東京では平地から山地まで広くみられ、DBにも各地から多数報告されました。食草のある明るく草丈の低い草地で発生し、市街地でも河川敷や原っぱのある公園などでみられます。成虫は3月から11月頃にかけて年4～5回程度発生します。成虫越冬ではありませんが真冬に羽化することもあり、DBには1月から12月まですべての月に成虫が報告されています。

食餌植物：シロツメクサ、ミヤコグサなどマメ科各種

みつけやすさ：★

## ツマキチョウ

*Anthocharis scolymus* Butler, 1866



オス : 2014.4.20 東京都港区 調査員番号 22

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

都市化に伴い、区部と周辺地域からはほとんどみられなくなっていましたが、1980年代後半から復活し、今では都心でも緑の多い場所では比較的普通にみられるようになりました。これは市街地にも増えた外来種のショカッサイなどを食草として利用するようになったことが大きく影響していると考えられます。幼虫は花蕾や若い実だけを食します。成虫は4月から5月頃にかけて年1回発生します。

食餌植物：タネツケバナ、イヌガラシ、ショカッサイなど（アブラナ科）

みつけやすさ：★★

## モンシロチョウ

*Pieris rapae crucivora* (Boisduval, 1836)



夏型オス：2014.7.2 東京都足立区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

かつてはキャベツ畑のまわりなどで多くみられました。都市化に伴って一旦減少したのち、近年になって区部でもとても増加しています。家庭菜園や花壇などで食草がよく栽培されるようになったことに加え、イヌガラシやショカッサイなど以前はあまり利用しなかった野生種をよく利用するようになったことがその理由として考えられます。成虫は4月から10月頃にかけて年5～6回程度発生します。

食餌植物：アブラナ科各種、キャベツやハボタンなど栽培種を好む

みつけやすさ：★

## スジグロシロチョウ

*Pieris melete melete* (Ménétriès, 1857)



春型オス：2014.5.2 東京都あきる野市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

本来は林縁に生息し、丘陵から山地に多い種ですが、東京では平地でもよくみられます。区部周辺では、かつてはモンシロチョウよりも多くみられましたが、近年になって急激に減少する傾向が認められています。その原因についてははっきりしませんが、DBにも2010年頃を境にそれらの地域からの報告はほとんどなくなりました。多摩地区の丘陵や低山地の周辺では今でも普通にみることができます。成虫は4月から10月頃にかけて年4～5回程度発生します。

食餌植物：アブラナ科各種、イヌガラシやショカッサイなど野生種を好む

みつけやすさ：★★

シジミチョウ科 Lycaenidae

20 種確認



ヤマトシジミ 夏型オス  
2014.7.6 東京都武藏村山市 調査員番号 39

ルリシジミ 夏型メス  
2014.7.28 東京都小平市 調査員番号 1310



アカシジミ  
2014.6.25 東京都八王子市 調査員番号 77

ミドリシジミ オス  
2014.6.20 東京都町田市 調査員番号 264



ウラギンシジミ 秋型オス  
2014.10.18 東京都港区 調査員番号 22

ベニシジミ 夏型メス  
2014.10.25 東京都東村山市 調査員番号 6012

## ウラギンシジミ

*Curetis acuta paracuta* de Nicéville, 1901



秋型メス：2014.10.20 東京都福生市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で、奥多摩などではかつては比較的まれな種でしたが近年増加しています。DBにも各地から多数報告されました。幼虫は新芽や花蕾、若い実を食べるため、春はフジ、夏から秋はクズをよく利用しています。年2～3回程度の発生で、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。越冬時は風当たりの弱い場所の常緑樹の葉裏に止まって過ごします。

食餌植物：フジ、クズなど（マメ科）

みつけやすさ：★★

## ゴイシシジミ

*Taraka hamada hamada* (H.Druce, 1875)



アブラムシに集まる：2014.8.16 東京都福生市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

幼虫は純肉食性で餌となるアブラムシが寄生している笹やぶに生息し、成虫もアブラムシの出す甘露を好んで吸います。まとまった笹やぶがあればかつては区部でもみられましたが近年東京全域からとても減少しました。DBにも少數の報告に留まっていますが、一部の地域では2013年頃からわずかに増える傾向にあるようです。成虫は6月から10月頃にかけて年4～5回程度発生します。

食餌：ササコナフキアブラムシなどササ・タケ類に付くアブラムシ類

みつけやすさ：★★★★★

## ムラサキシジミ

*Narathura japonica japonica* (Murray, 1875)

メス : 2014.11.19 東京都福生市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種でブナ科コナラ属の樹木を食樹としますが常緑樹のアラカシを特に好みます。東京全域からとても減少した時期がありましたが、近年復活し街中の公園などでもみられるようになりました。DBにも各地から報告されています。年3回程度の発生で、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。越冬時は風当たりの弱い場所の常緑樹の葉の上に複数の個体が集まって過ごします。

食餌植物：アラカシ、クヌギなど（ブナ科）

みつけやすさ：★★

## ムラサキツバメ

*Narathura bazalus turbata* (Butler, 1882)



メス：2014.11.19 東京都福生市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種でかつては近畿地方以南に分布していましたが、2000年頃から東京にも定着しています。食樹のマテバシイは近年街路樹や公園木などとして植栽されることが多くなり、それに伴って持込まれ広がった可能性が考えられます。都市気候による温暖化も定着を手助けしていると考えられます。年3回程度の発生で、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。越冬時は風当たりの弱い場所の常緑樹の葉の上に複数の個体が集まって過ごします。

食餌植物：マテバシイ（ブナ科）

みつけやすさ：★★

## ウラゴマダラシジミ

*Ar topoetes pryeri* (Murray, 1873)

産卵：2013.6.22 東京都武蔵村山市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

食樹が生育する谷戸や河畔林などの湿地や沢沿いに生息します。東京では都市化によって減少し、今では丘陵から低山地にかけて局所的にみられるにすぎません。DBにも北多摩の丘陵から2件報告されただけです。成虫は年1回、6月上旬を中心とした短い時期にしか発生しないことも報告が少ない理由かもしれません。

食餌植物：イボタノキ（モクセイ科）

みつけやすさ：★★★

## ウラキンシジミ

*Ussuriana stygiana* (Butler, 1881)



メス：2014.7.18 東京都奥多摩町 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年
確認時期	1	2	3	4	5	6	7
確認地域	区	北	南	西			月

東京では山地の落葉広葉樹林に生息し、山地周辺の丘陵でみられることもあります。成虫は樹上で活動するためにみかける機会は限られますが、休息時は下草や林縁などの低い場所に降りていていることもあります。DBには奥多摩町から1件報告されました。成虫は年1回、6月から7月頃に発生します。

食餌植物：コバノトネリコ（モクセイ科）

みつけやすさ：★★★★★

## ミズイロオナガシジミ

*Antigius attilia attilia* (Bremer, 1861)

2014.6.3 東京都八王子市 調査員番号 264

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では里山の雑木林に多い種ですが、市街地に残された小規模な雑木林や食樹が数本残されている場所でもみられます。近年、湾岸埋立地の公園などでも記録されていますが、これらは緑地造成に伴う食樹の植栽による地域外からの人為移入によるものと考えられます。成虫は樹上で活動しますが休息時は下草などによく降りているため、林内や林縁などで比較的よくみかけます。クリの花にも集まります。成虫は年1回、6月頃に発生し、生き残りの個体は8月頃までみられることがあります。

食餌植物：クヌギ、コナラなど（ブナ科）

みつけやすさ：★★

## アカシジミ

*Japonica lutea lutea* (Hewitson, 1865)



2014.6.9 東京都八王子市 調査員番号 5017

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では里山の雑木林に多い種です。都市化に伴って区部および隣接する北多摩の平地ではほとんどみられなくなっていましたが、近年になると再び各地で記録されるようになりDBにも報告されています。これらの中には、緑地造成に伴う食樹の植栽による地域外から的人為移入によるものも多く含まれていると考えられます。成虫は樹上で活動しますが休息時は下草などに降りていることも多く、クリの花にも集まります。成虫は年1回、6月頃に発生します。

食餌植物：クヌギ、コナラなど（ブナ科）

みつけやすさ：★★

## ウラナミアカシジミ

*Japonica saepestriata saepestriata* (Hewitson, 1865)



オス：2014.6.2 東京都町田市 調査員番号 264

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では里山の雑木林に多い種です。都市化に伴って、区部および隣接する北多摩の平地からはほぼみられなくなっていましたが、近年、街中に残された小規模な雑木林や公園などでも記録されるようになり、DBにも報告されました。これらの中には、緑地造成に伴う食樹の植栽による地域外から的人為移入によるものも多く含まれていると考えられます。成虫は樹上で活動しますが、休息時は下草などに降りていることも多く、クリの花にも集まります。成虫は年1回、6月頃に発生します。

食餌植物：クヌギ（ブナ科）

みつけやすさ：★★

## メスアカミドリシジミ

*Chrysozephyrus smaragdinus smaragdinus* (Bremer, 1861)



メス：2013.8.8 東京都奥多摩町 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では山地の落葉広葉樹林に生息します。成虫は樹上で活動するためみかける機会は限られますが、下草や林縁などの低い場所に静止していることもあります。オスは日中、渓谷沿いなどの林縁の空間に張り出した枝先に止まってなわばりを形成します。DBには奥多摩町から1件報告されました。成虫は年1回、6月から8月頃に発生します。

食餌植物：ヤマザクラなど（バラ科）

みつけやすさ：★★★★★

## ミドリシジミ

*Neozephyrus japonicus japonicus* (Murray, 1875)



メス : 2014.6.20 東京都町田市 調査員番号 264

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

ハンノキの生える谷戸や河畔林などの湿地に生息しますが、ヤマハンノキの生える雑木林や林道沿いなどでもみられます。東京では丘陵や河川敷などに局所的な生息地が知られています。都市化に伴って区部および隣接する北多摩の平地ではほとんどみられなくなっていましたが、近年各地で記録されるようになりDBにも報告されています。これらの多くは、食樹の移動や植栽に伴うなどの地域外からの人為移入に基づくものと考えられます。成虫は年1回、6月から7月頃に発生します。

食餌植物：ハンノキ、ヤマハンノキ（カバノキ科）

みつけやすさ：★★★

## オオミドリシジミ

*Favonius orientalis* (Murray, 1875)



メス：2013.6.29 東京都稻城市 調査員番号 1319

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京ではおもに里山の雑木林に生息する種で、DB にもこのような場所から報告されました。都市化に伴って区部および隣接する北多摩の平地ではほとんどみられなくなっていましたが、近年再び記録されるようになりました。これらは状況から、食樹の移動や植栽に伴うなどの地域外からの人為移入に基づくものと考えられます。成虫は樹上で活動しますが休息時は下草などに降りていることも多く、クリの花にも集まります。成虫は年1回、6月から7月頃に発生します。

食餌植物：クヌギ、コナラなど（ブナ科）

みつけやすさ：★★★

## トラフシジミ

*Rapala arata* (Bremer, 1861)

春型：2014.5.18 東京都あきる野市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

食樹や食草の多い丘陵の林縁や山地の渓谷沿いなどでよくみられます。市街地でも時々記録されDBにも報告されました。幼虫は食性が広く様々な植物を利用しますが、花蕾や若い実だけを食べるため、場所やその時々で利用できる種を選んで移動しながら生活しています。成虫は年2回発生します。4月から5月頃に春型、それ以降に夏型が発生しますが、春型に比べ夏型は個体数が少なく、みかける機会は限られています。

食餌植物：フジ、クズ（マメ科）、ウツギ（アジサイ科）、ノイバラ（バラ科）など

みつけやすさ：★★

## コツバメ

*Callophrys ferrea* (Butler, 1866)



オス : 2014.4.26 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京ではおもに丘陵の里山や山地の渓谷沿いなどでみられますが、個体数はそれほど多くありません。DBにも少数の報告に留まっています。幼虫は花薺や若い実だけを食べるため、場所やその時々によって利用する食樹が異なります。年1回発生のチョウとしては最も早い時期に出現する種のひとつで、木々の芽吹きの始まる頃に羽化します。山地では発生が遅れ、標高の高い場所では6月に入ってもみられることがあります。

食餌植物 : アセビ、ヤマツツジ (ツツジ科)、ガマズミ (スイカズラ科) など

みつけやすさ : ★★★

## ベニシジミ

*Lycaena phlaeas daimio* (Matsumura, 1919)

春型メス：2014.5.19 東京都立川市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地まで広く生息しており、DBにも各地から多数報告されました。河川敷や原っぱのある公園など、食草の多い明るく草丈の低い草地でよくみられます。幼虫で越冬しますが冬でもある程度気温が上ると餌を食べて成長するため、早いものは3月上旬頃には羽化します。成虫は春から秋まで年4～5回程度発生します。

食餌植物：スイバ、ギシギシ、ヒメスイバなど（タテ科）

みつけやすさ：★

## ウラナミシジミ

*Lampides boeticus* (Fabricius, 1798)



メス : 2014.10.12 東京都目黒区 調査員番号 22

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で、幼虫は花蕾や若い実だけを食べます。幼虫で越冬しますが、その北限は千葉県房総半島南部とされています。東京ではおもに夏から晚秋にかけて市街地でもよくみかけますが、毎年越冬地から世代を繰り返しながら飛来し、気温が高い間だけ数回程度発生を繰り返すものと考えられています。伊豆諸島では越冬可能で、小笠原諸島ではほぼ周年成虫が記録されています。

食餌植物：マメ科各種、ダイズ、インゲン、エンドウなど栽培種を好む

みつけやすさ：★

## ヤマトシジミ

*Zizeeria maha argia* (Ménétriès, 1857)

夏型メス：2014.6.30 東京都豊島区 調査員番号 165

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では最も普通に見られるチョウのひとつですが、奥多摩などの山地では比較的まれにしかみられません。緑地がないような場所でも街路樹の植え込みや花壇、舗装の隙間などにカタバミが生えていれば生息でき、最近では外来種のオッタチカタバミもよく利用しています。成虫もカタバミの花を蜜源として利用します。成虫は春から秋まで年5～6回程度発生します。

食餌植物：カタバミ、オッタチカタバミ（カタバミ科）

みつけやすさ：★

## ルリシジミ

*Celastrina argiolus ladonides* (de l'Orza, 1869)



夏型オス：2014.6.9 東京都羽村市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地まで広く生息しており、DB にも各地から報告されました。国内に生息するチョウの中では最も食性の広いもののひとつであり、様々な植物を利用します。幼虫が食べるのは花蕾だけなので、その時々で利用できる種を選んで移動しながら生活しています。成虫は春から秋まで年 4 ~ 5 回程度発生します。

食餌植物：フジ、クズ、ハギ類（マメ科）、ミズキ（ミズキ科）、イタドリ（タデ科）など

みつけやすさ：★

## スギタニルリシジミ

*Celastrina sugitanii sugitanii* (Matsumura, 1919)



オス : 2014.4.12 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年
確認時期	1	2	3	4	5	6	月
確認地域	区	北	南	西			

東京では山地性で奥多摩の渓谷沿いに生息する種でしたが、1990年頃から高尾山周辺でもみられるようになりました。幼虫は花蕾だけを食べ、トチノキを最も好みますが、トチノキのない場所ではミズキを利用しているようです。年1回発生のチョウとしては最も早い時期に出現する種のひとつで、木々の芽吹きの始まる頃から新緑になる頃までの短い間に発生します。

食餌植物：トチノキ（トチノキ科）、ミズキ（ミズキ科）

みつけやすさ：★★★

## ツバメシジミ

*Everes argiades argiades* (Pallas, 1771)



メス：2014.7.25 東京都八王子市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地まで広く生息しており、DBにも各地から多数報告されました。メドハギや外来種のシロツメクサ（クローバー）などの食草が生える明るく草丈の低い草地のある河川敷や公園などでよくみられます。成虫は春から秋まで年4～5回程度発生します。

食餌植物：メドハギ、シロツメクサなどマメ科各種

みつけやすさ：★

## タテハチョウ科 Nymphalidae



ツマグロヒョウモン オス  
2014.8.29 東京都東村山市 調査員番号 1338



ツマグロヒョウモン メス  
2014.7.12 東京都品川区 調査員番号 6032



アサギマダラ メス  
2014.10.12 東京都港区 調査員番号 22



アスマイチモンジ 夏型オス  
2011.9.8 東京都町田市 調査員番号 264



ゴマダラチョウ 夏型オス  
2014.8.31 東京都福生市 調査員番号 2434



アカボシゴマダラ 春型オス  
2014.5.17 東京都国立市 調査員番号 5002

37種確認



ウラギンヒョウモン オス  
2013.6.17 東京都八王子市 調査員番号 264



メスグロヒョウモン メス  
2014.6.3 東京都八王子市 調査員番号 287



サカハチチョウ 夏型メス  
2014.7.8 東京都青梅市 調査員番号 1310



ルリタテハ 夏型オス  
2014.6.21 東京都武蔵村山市 調査員番号 39



ヒメジャノメ オス 2014.10.18  
2014.10.18 東京都千代田区 調査員番号 9001



クロヒカゲ御藏島亜種 メス  
2014.6.2 東京都御藏島村 調査員番号 6005

## テングチョウ

*Libythea lepita celtoides* Fruhstorfer, [1909]



メス：2014.6.2 東京都小金井市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では丘陵から山地にかけて生息していますが、平地にもしばしば飛来し、市街地でもまとまった樹林のある場所では発生することがあります。DBにも区部を含め各地から報告されました。6月頃に羽化した成虫は秋まで活動して越冬し翌春産卵します。時には年2回発生することもあります。

食餌植物：エノキ（ニレ科）

みつけやすさ：★★

## アサギマダラ

*Parantica sita niphonica* (Moore, 1883)



オス : 2014.5.25 東京都豊島区 調査員番号 165

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京ではおもに低山地から山地にかけて生息します。成虫は移動性が高く丘陵や市街地でも時折みかけます。関東地方が越冬地の北限で幼虫で越冬します。越冬地は常緑性のキジョランが生育する場所に限られ、東京では高尾山周辺が主要な越冬地となっています。夏にはイケマなどの落葉性の植物もよく利用します。成虫は5月から10月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：キジョラン、イケマなど（ガガイモ科）

みつけやすさ：★★

## カバマダラ

*Danaus chrysippus chrysippus* (Linnaeus, 1758)



オス : 2010.11.6 東京都江東区 調査員番号 296

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で、国内では南西諸島に定着しています。成虫は移動性が高くしばしば本土にも飛来して一時的に発生することもあります。東京では伊豆諸島や小笠原諸島で発生した記録があります。DBには江東区から1件の報告があり同区からの初記録となります。写真の個体の翅には移動を調べるためにと思われる記号が書かれています。どこの誰がつけたのか関心がもたれるところです。

食餌植物：トウワタ、フウセントウワタ、ガガイモ（ガガイモ科）

みつけやすさ：★★★★★

## ミドリヒョウモン

*Argynnis paphia tsushima* Fruhstorfer, 1906



オス : 2014.9.27 東京都港区 調査員番号 22

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では丘陵から山地にかけて生息しますが、秋になるとしばしば平地や市街地にも飛来します。DBには区部からも報告されました。山が涼しくなり、吸蜜できる花が少なくなるためと、栽培植物や路傍の外来植物の花を求めてやってくるのでしょうか。成虫は年1回発生で6月頃羽化しますが、気温の上がる低地では夏眠を行い、涼しくなると活動を再開して晩秋までみられます。

食餌植物：タチツボスミレなどスミレ科各種

みつけやすさ：★★

## メスグロヒョウモン

*Damora sagana ilane* (Fruhstorfer, 1907)



オス：2014.6.17 東京都武蔵村山市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では丘陵から山地にかけて生息します。近年増加しており、丘陵で見られるヒョウモン類の多くは本種かツマグロヒョウモンです。オスとメスが全く異なる色彩をしていることも特徴です。成虫は年1回発生で6月頃羽化しますが、気温の上がる低地では夏眠を行い、涼しくなると活動を再開して晩秋までみられます。秋に平地や市街地でみられることはまれです。

食餌植物：タチツボスミレなどスミレ科各種

みつけやすさ：★★

## オオウラギンスジヒョウモン

*Argyronome ruslana* (Motschulsky, 1866)



メス : 2014.9.27 東京都港区 調査員番号 22

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では丘陵から山地にかけて生息しますが、比較的少ない種でDBへの報告も少数に留まっています。本種も秋になると平地や市街地にも時折飛来しDBには区部からも報告されました。平地へ飛来するのはほとんどがメスです。成虫は年1回の発生で6月頃羽化しますが、気温の上がる低地では夏眠を行い、涼しくなると活動を再開します。その後は晩秋までみることができます。

食餌植物：タチツボスミレなどスミレ科各種

みつけやすさ：★★★

## クモガタヒョウモン

*Nephargynnus anadyomene midas* (Butler, 1866)



オス : 2014.5.18 東京都あきる野市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

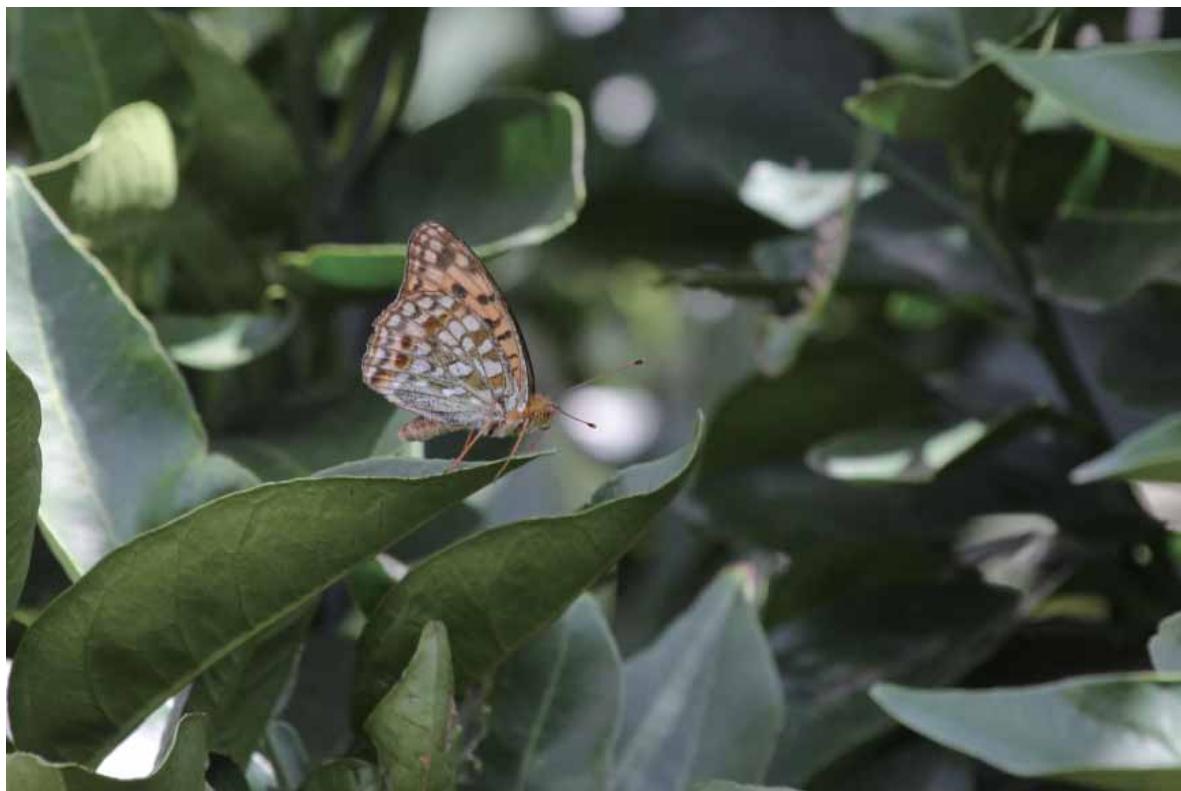
東京では丘陵から山地にかけて生息します。どちらかといえばまれな種でDBへの報告も少数に留まっています。年1回発生のヒョウモンチョウ類では最も早い時期から活動を開始し、5月中旬頃には羽化がはじまります。気温の上がる低地では夏眠を行い、涼しくなると活動を再開して晩秋までみられますが、秋に平地や市街地でみられることはほとんどありません。

食餌植物：タチツボスミレなどスミレ科各種

みつけやすさ：★★★

## ウラギンヒヨウモン

*Fabriciana adippe pallescens* (Butler, 1873)



オス : 2013.9.2 東京都小平市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

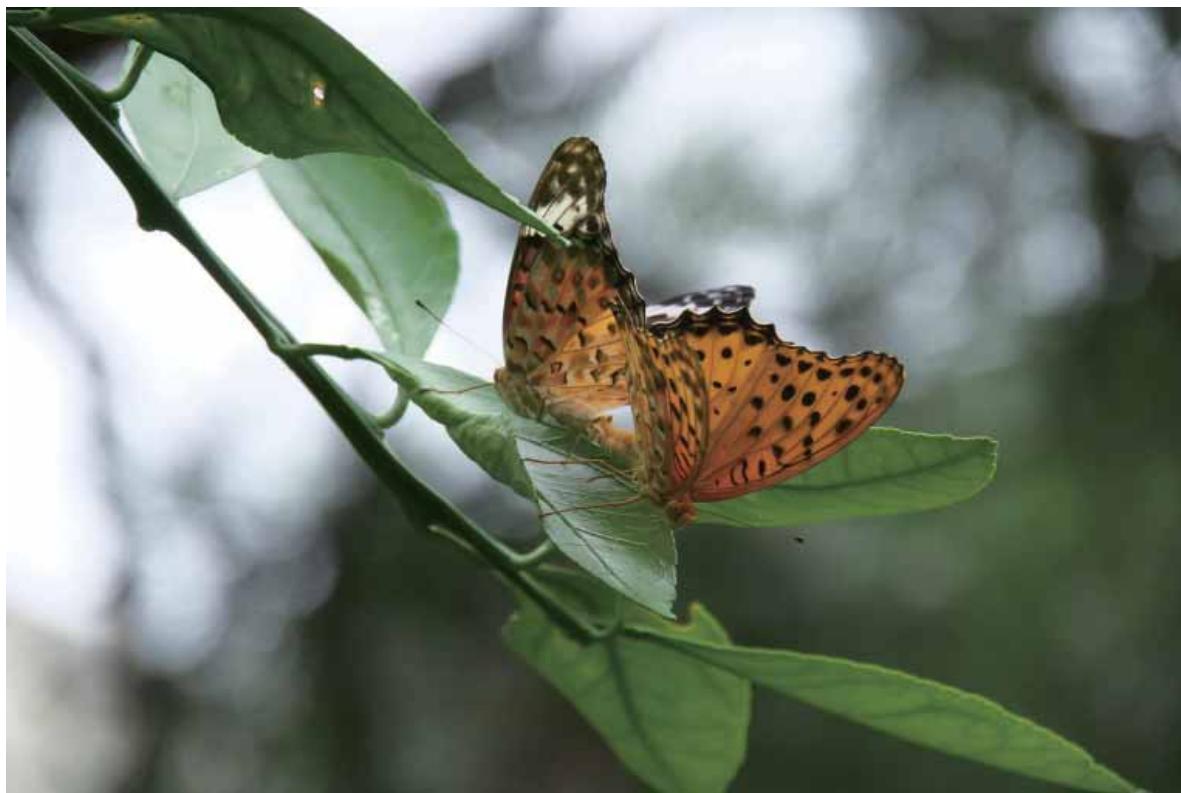
東京では陣場山周辺や奥多摩の尾根沿いなどに残された草原でみられます。生息地も個体数も限られています。過去には平地や丘陵にもわずかに定着していたようですが、草原の減少に伴い、現在はごくまれに飛来するだけです。DBには陣場山周辺と北多摩の平地からの報告もありました。成虫は年1回、6月頃に羽化して秋まで見られます。

食餌植物 : タチツボスミレ、スミレなどスミレ科各種

みつけやすさ : ★★★★☆

## ツマグロヒョウモン

*Argyreus hyperbius hyperbius* (Linnaeus, 1763)



交尾：2014.8.17 東京都足立区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で、東京では伊豆諸島だけに定着していましたが 2000 年頃に本土部で定着すると急速に増え、今では市街地で最もよくみかけるチョウのひとつになりました。都市気候の温暖化に加えて、主要な食草となっているパンジーの流通や植栽が増えたこともその増加の一因と考えられます。成虫は 5 月から 10 月頃まで年 3 ~ 4 回程度発生しますが、最近ではより長い期間成虫がみられるようになってきています。

食餌植物：スミレ科各種、パンジーなどの園芸種も好む。

みつけやすさ：★

## イチモンジチョウ

*Ladoga camilla japonica* (Ménétriès, 1857)



春型メス：2014.5.24 東京都武蔵村山市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地まで広く生息しますが、市街地ではまれで区部ではほとんどみることができません。林縁を好み、里山環境の残されている丘陵や山地の渓谷沿いなどでよくみられます。近似種のアサマイチモンジと同じ場所でみられることもあり、同定には注意が必要です。成虫は5月から9月頃まで年3回程度発生します。

食餌植物：スイカズラ、タニウツギなど（スイカズラ科）

みつけやすさ：★★

## アサマイチモンジ

*Ladoga glorifica* (Fruhstorfer, 1909)

夏型メス：2011.8.13 東京都町田市 調査員番号 264

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では 1980 年代から記録が減り、その後途絶えてしまったため絶滅種とされていました。2010 年に北多摩の小金井市から久々に記録されました。DB には町田市から 2011 年に 2 件報告され、南多摩からの初めての再発見例となりました。同年には西多摩の奥多摩町でも記録されており、今後他の場所でもみつかる可能性があります。成虫は 5 月から 9 月頃まで年 3 回程度発生します。

食餌植物：スイカズラなど（スイカズラ科）

みつけやすさ：★★★★★

## コミスジ

*Neptis sappho intermedia* W. B. Pryer, 1877



夏型メス：2014.7.10 東京都杉並区 調査員番号 2452

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

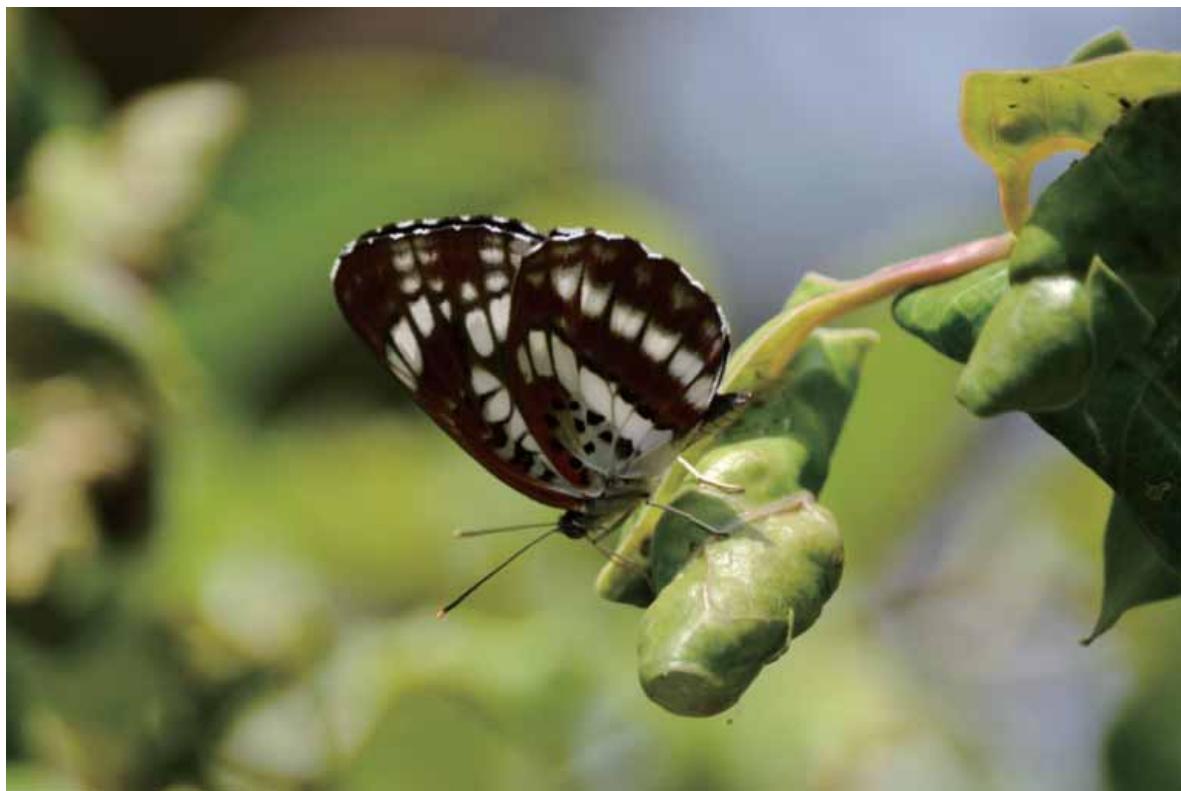
東京では平地から山地まで広く生息します。都市化に伴い区部および隣接する北多摩の平地ではほとんどみられなくなっていましたが、近年再び記録されるようになりました。これは栽培されているフジなどを食草として利用するようになったためと考えられます。現在では区部でも普通にみられるようになりましたDBにも各地から報告されています。成虫は5月から10月頃まで年3回程度発生します。

食餌植物：フジ、クズなど（マメ科）

みつけやすさ：★

## ホシミスジ

*Neptis pryeri setoensis* Fukuda et Minotani, 1999



オス：2014.6.2 東京都小金井市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

DBに報告のあったものはすべて西日本に分布する亜種で、人為的に持込まれた国内外来種です。北多摩および隣接する区部を中心に分布が拡大しており、公園などに植栽されたユキヤナギで発生しています。東京では奥多摩の山地と八王子市の一帯に本州中部地方以北に分布する在来亜種が分布しており、その生息地に侵入して交雑し、地域本来の亜種の独自性を失わせてしまうことが心配されます。成虫は5月から10月頃まで年2回程度発生します。

食餌植物：ユキヤナギ、シモツケ類（バラ科）

みつけやすさ：★★

## ミスジチョウ

*Neptis philyra excellens* Butler, 1878



メス：2014.8.5 東京都奥多摩町 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では里山環境のよく残された丘陵や山地の渓谷沿いなどに生息しています。落葉広葉樹林のチョウで、スギやヒノキの植林が進んだ地域ではほとんどみられません。ミスジチョウ類の中では大型で目立ちますが、比較的少ない種でみかける機会は限られます。DBにも限られた地域から少数の報告に留まっています。成虫は年1回、6月頃に発生します。冷涼な気候の山地では発生が遅れ、8月に入ってもみられることがあります。

食餌植物：イロハモミジ、オオモミジなど（カエデ科）

みつけやすさ：★★★

## サカハチチョウ

*Araschnia burejana strigosa* Butler, 1866



春型オス：2014.5.18 東京都あきる野市 調査員番号 2434

確 認 年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

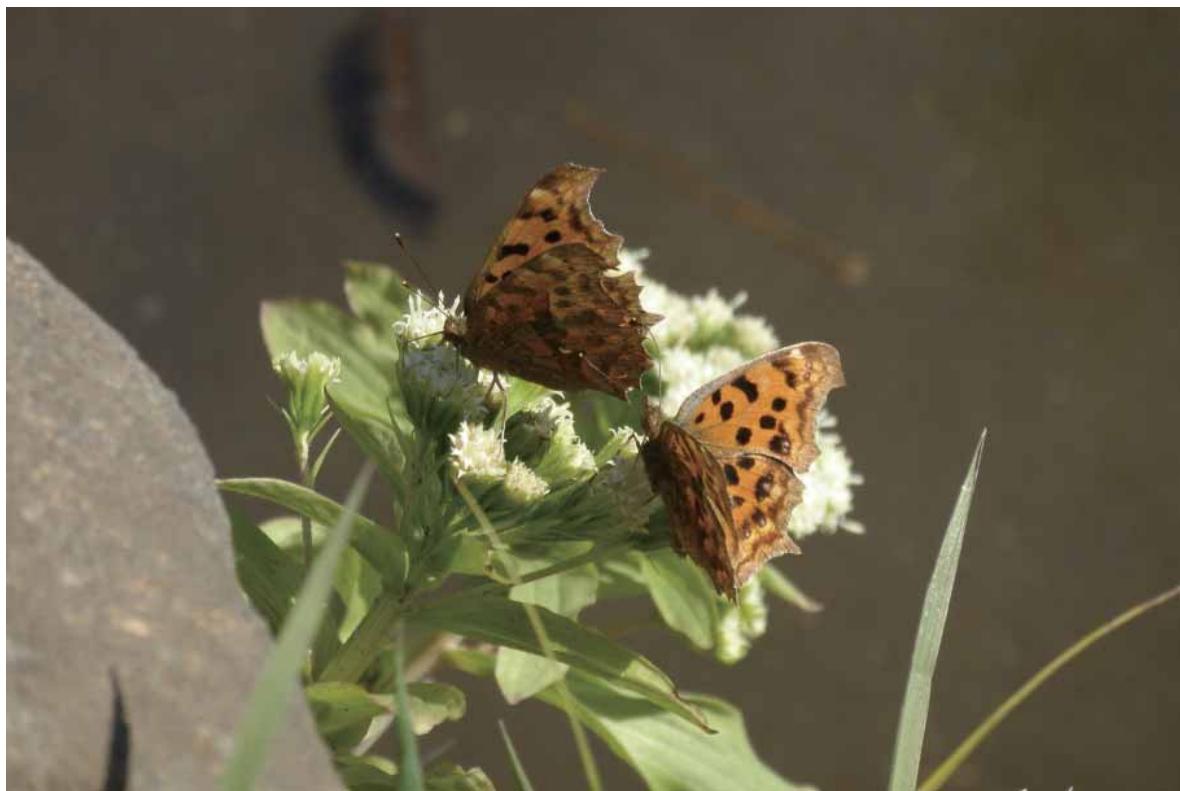
東京では奥多摩や高尾山周辺に生息する山地性の種です。山地周辺の丘陵でもみられることがあります。DBにもそのような場所からの報告もありました。林縁や渓谷沿いなどの環境を好みます。成虫は年2回発生します。5月頃に発生する春型と7~8月頃に発生する夏型とでは翅表の斑紋が別種のように異なりますが、翅裏の斑紋はほとんど同じです。

食餌植物：コアカソ、イラクサなど（イラクサ科）

みつけやすさ：★★

## キタテハ

*Polygonia c-aureum* (Linnaeus, 1758)



越冬後の秋型：2014.3.25 東京都大田区 調査員番号 5028

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から丘陵にかけてよくみられ、山地では少ない種です。食草の茂る河川敷や空き地、明るい林縁などを好み、そのような環境が近くにあれば市街地でもみることができます。DBには各地から多数報告されました。成虫は年3回程度発生し、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。真冬でもよく晴れた暖かい日には活動し、ゆるやかに飛び回り石の上などで日光浴をする姿をみかけることもあります。

食餌植物：カナムグラ（ワワ科）

みつけやすさ：★

## シータテハ

*Polygonia c-album hamigera* (Butler, 1877)



秋型オス：2014.8.16 東京都奥多摩町 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では山地性の種で、おもに奥多摩の山地に生息しています。個体数は比較的少なく、みかける機会は限られます。落葉広葉樹林のチョウで、渓谷沿いの林道や尾根道などの日当たりのよい場所を好みます。秋になると周辺の丘陵や平地にもまれに飛来することがあります。成虫は年2回程度発生し、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。

食餌植物：ハルニレ、エノキなど（ニレ科）

みつけやすさ：★★★

## ヒオドシチョウ

*Nymphalis xanthomelas japonica* (Stichel, 1902)



メス：2014.5.29 東京都東村山市 調査員番号 1338

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では里山環境のよく残された丘陵から山地に生息しています。平地や市街地にも時折飛来し、DBには区部からも報告されました。低地では羽化した成虫はすぐに夏眠してしまい、翌春までほとんど活動しないためみかける機会は限られます。越冬後の成虫は丘陵の尾根などで比較的よくみかけます。エノキを特に好み、幼虫は群生するため木を丸坊主にするほど大発生することもあります。成虫は年1回発生し、6月頃に羽化した成虫は越夏・越冬して翌春に産卵します。

食餌植物：エノキ（ニレ科）、ヤナギ類（ヤナギ科）

みつけやすさ：★★★

## エルタテハ

*Nymphalis vaualbum samurai* (Fruhstorfer, 1907)

メス：2013.8.16 東京都奥多摩町 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では奥多摩の標高 800 ~ 1000 m 以上の山地に生息する種です。個体数も少な  
くみかける機会はかなり限られます。DB には奥多摩町から 1 件報告されました。成虫  
は年 1 回発生し、7 月頃に羽化した成虫は秋まで活動した後に越冬して翌春に産卵しま  
す。

食餌植物：ハルニレ（ニレ科）、シラカンバ、ダケカンバ（カバノキ科）

みつけやすさ：★★★★★

## ルリタテハ

*Kaniska canace nojaponicum* (von Siebold, 1824)



夏型オス：2014.7.11 東京都小平市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地まで広く分布しています。樹林性の種で、里山環境では林縁に生育するサルトリイバラをよく利用しています。市街地でもまとまった樹林があるとよくみられ、庭先や花壇などに植えられているタイワンホトトギスなどのユリ科の園芸種を食草として発生することもあります。成虫は年3回程度発生し、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。

食餌植物：サルトリイバラ、ホトトギス類など（ユリ科）

みつけやすさ：★★

## アカタテハ

*Vanessa indica indica* (Herbst, 1794)



メス：2014.11.2 東京都小平市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

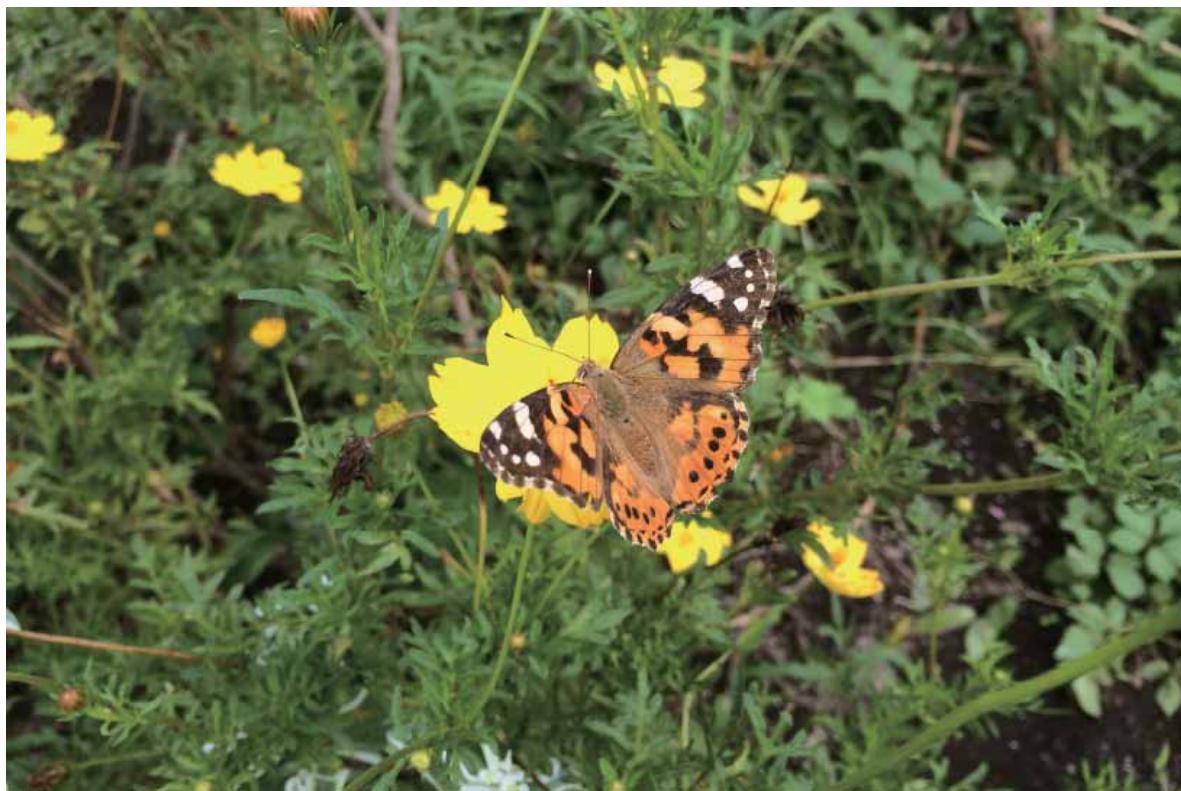
東京では平地から山地まで広く分布しています。食草のある林縁や草地などの明るい環境を好み、市街地でもこのような場所があればみられます。幼虫は葉を折りたたんで目立つ巣を作るためにみつけやすく、これを調べることでも生息を確認できます。成虫は年3回程度発生し、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。

食餌植物：カラムシ、ヤブマオなど（イラクサ科）

みつけやすさ：★★

## ヒメアカタテハ

*Vanessa cardui* (Linnaeus, 1758)



メス：2014.8.31 東京都府中市 調査員番号 6028

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種ですが成虫の移動性は高く、平地から山地まで広くみられます。東京では夏以降に増加し、秋になると市街地でもみかける機会が多くなります。その場所で発生したものに加え周辺から移動してきた個体も多いと考えられます。成虫は年3回程度発生します。暖地では成虫でも越冬しますが、東京周辺では幼虫で越冬することが多いようです。

食餌植物：ハハコグサ、ヨモギ、ゴボウなど（キク科）

みつけやすさ：★★

## スミナガシ

*Dichorragia nesimachus nesiotes* Fruhstorfer, 1903



夏型オス：2014.8.3 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では丘陵から山地にかけて生息します。樹林性の種で、食樹の生育する谷戸や渓谷沿いなどでみられます。オスは午後に山頂などの開けた場所の林縁でなわばりを持つ習性があります。また、驚いたときなどに木の葉の裏に翅を開いて静止する習性もあり、DBにもその様子が報告されています。成虫は5月から8月頃にかけて年2回発生します。

食餌植物：アワブキ、ミヤマハハソ（アワブキ科）

みつけやすさ：★★★

## コムラサキ

*Apatura metis substituta* Butler, 1873



夏型メス：2014.8.5 東京都府中市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

ヤナギ類の生育する湿地や河川敷、渓谷沿いなどに生息し、シダレヤナギが植栽された公園などでもみられます。東京では都市化に伴い、奥多摩の渓谷と区東部の河川沿いでみられる程度に減少していましたが、2000年頃から分布の拡大がみられます。DBにも区部を含め各地から報告されました。近年の増加は自然の分布拡大と人為的な移入両方の可能性が考えられます。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：ヤナギ類（ヤナギ科）

みつけやすさ：★★★

## オオムラサキ

*Sasakia charonda charonda* (Hewitson, [1863])

オス：2014.7.28 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

武蔵野の雑木林を代表する大型のタテハチョウで、かつては区部や多摩地区の平地にも生息していましたが、都市化の影響によって絶滅してしまい、今ではおもに丘陵から低山地のエノキやクヌギ、コナラなどからなる里山林やその周辺でみられます。樹液によく集まり、地面で吸水することもありますが、樹上や林内で活動することが多く、目立つ割にみかける機会は限られています。オスはメスより先に羽化し、山頂などの開けた場所の林縁でなわばりを張る習性があります。成虫は7月頃を中心に年1回発生します。

食餌植物：エノキ（ニレ科）

みつけやすさ：★★★

## ゴマダラチョウ

*Hestina japonica* (C. & R. Felder, 1862)



産卵：2014.7.3 東京都大田区 調査員番号 5028

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

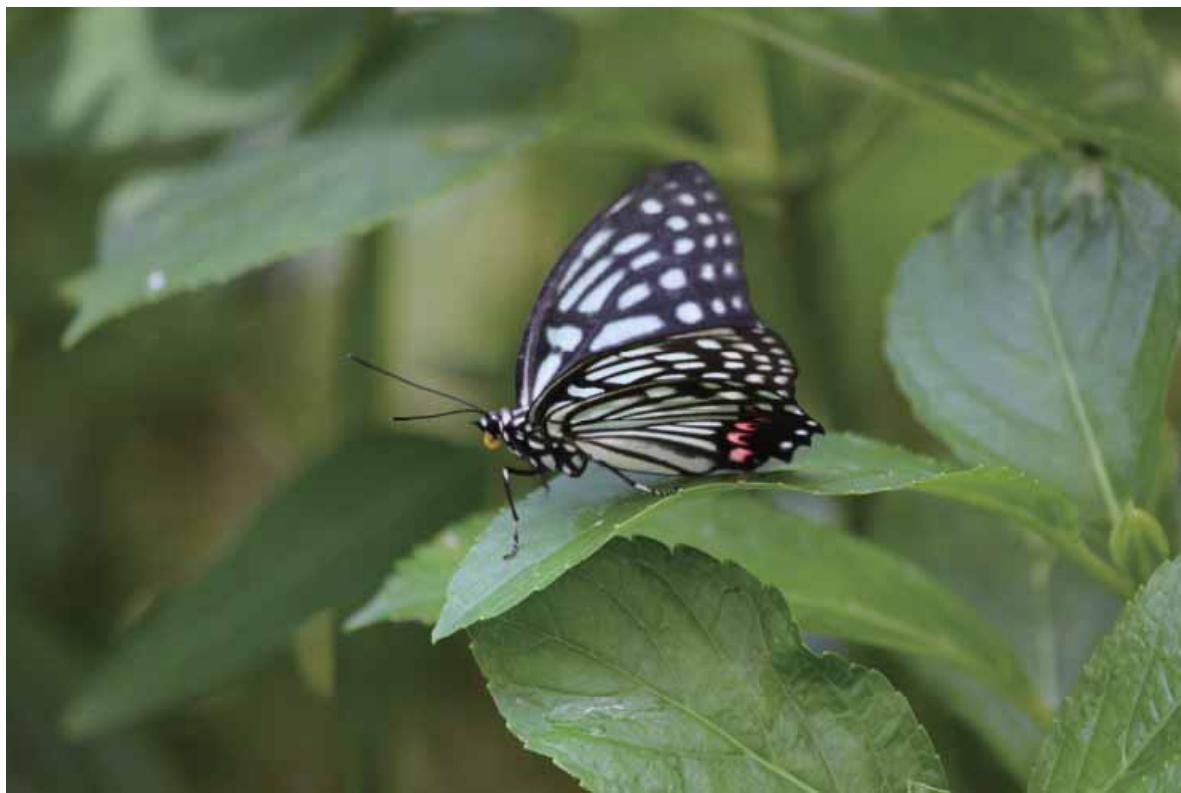
しばしばオオムラサキと同所的に生息します。まとまった樹林があれば区部や多摩地区的市街地でもよくみられましたが、2000年代の後半から各地で減少し、DBへの報告もわずかです。減少の理由として、同じ食樹を利用する外来種で、生態的に似通った部分の多いアカボシゴマダラとの競合の可能性が指摘されています。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：エノキ（ニレ科）

みつけやすさ：★★★

## アカボシゴマダラ

*Hestina assimilis assimilis* (Linnaeus, 1759)



夏型メス：2014.8.2 東京都調布市 調査員番号 287

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京でみられるものは中国大陸に分布する亜種で、人為的に持込まれたものが定着した国外外来種です。東京では2000年代の後半からゴマダラチョウと置き換わるように増加し、今では普通にみられるようになりました。DBにも各地から多数報告されました。成虫は年3～4回程度発生し、春に羽化する個体は翅全体が白化して別種のようにみえます。晩秋に羽化する個体には中間的なものもみられます。

食餌植物：エノキ（ニレ科）

みつけやすさ：★

## ジャノメチョウ

*Minois dryas bipunctata* (Motschulsky, 1860)



オス : 2014.7.21 東京都立川市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

食草のススキなどが茂る明るく広々とした草地でみられます。平地から山地まで広く生息しますが、生息に適した草地の減少によって区部ではほぼみられなくなり、多摩地区でも限られた場所でしかみられなくなりました。一方、宅地や公園などの造成後にできた草地で多数発生する場所もあります。成虫は年1回、7月から8月頃にかけて発生します。

食餌植物：ススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★★★

## ヒカゲチョウ

*Lethe sicelis* (Hewitson, 1862)



オス : 2014.6.17 東京都武蔵村山市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地にかけて広く生息しますが、山地では少ない種です。まとまった樹林や笹やぶがあれば市街地でもよくみられ、DBには区部からも多数報告されました。成虫は木陰や林内を好み、樹液によく集まります。成虫は6月から9月頃にかけて年2～3回程度発生します。

食餌植物：アズマネザサ、メダケなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## クロヒカゲ

*Lethe diana diana* (Butler, 1866)



オス：2014.7.13 東京都小金井市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京ではおもに丘陵から山地にかけて生息し、ヒカゲチョウよりも薄暗い環境を好みます。奥多摩の山地では、増えすぎた鹿によって食草のササ類がほとんど食べつくされてしまったために、以前に比べみかけることが少なくなりました。伊豆諸島の御蔵島には翅裏の斑紋などが大きく異なる固有の亜種が分布しており、DBにも報告されました。成虫は6月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：アズマネザサ、メダケなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## サトキマダラヒカゲ

*Neope goschkevitschii* (Ménétriès, 1857)



春型オス：2014.6.12 東京都国立市 調査員番号 5002

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から低山地にかけて広く分布しています。まとまった樹林や笹やぶがあれば市街地でもよくみられ、DBには区部からも多数報告されました。成虫は木陰や林内を好み、樹液によく集まります。夕刻など薄暗い時間には林縁などに出てきて活発に飛びまわります。成虫は5月から9月頃にかけて年2回発生します。

食餌植物：アズマネザサ、メダケなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## ヤマキマダラヒカゲ

*Neope niphonica niphonica* Butler, 1881



夏型オス：2011.8.7 東京都青梅市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京ではおもに奥多摩の標高 600 ~ 800 m以上の山地に生息しています。林床にササ類が茂った落葉広葉樹林や林道沿いなどで見られます。青梅市では御岳山周辺のみで記録されており、DB にも報告されました。本種も少なくなっています。鹿の食害の影響を受けていると考えられます。成虫は5月から8月頃にかけて年2回発生します。

食餌植物：スズタケなどササ類（イネ科）

みつけやすさ：★★★

## ヒメジヤノメ

*Mycalesis gotama fulginia* Fruhstorfer, 1911



メス：2014.5.19 東京都大田区 調査員番号 5028

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から低山地にかけて生息しています。林縁や河川敷などの明るい草地を好みます。市街地でも庭先や公園などで比較的よくみられ、DBにも各地から多数報告されました。地味なチョウですが、跳ねるような独特な飛び方をするのでみつけるのはむずかしくありません。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：チヂミザサ、チガヤ、ススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★

## コジャノメ

*Mycalesis francisca perdicas* Hewitson, 1862



夏型オス：2014.8.13 東京都あきる野市 調査員番号 137

確 認 年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京ではおもに丘陵から低山地にかけて生息しています。ヒメジャノメに似ていますが、樹林内や林縁などの薄暗い環境を好み、しばしばクロヒカゲと同じ場所でみられます。飛び方はヒメジャノメと同じでまぎらわしいですが、より黒く見えることや生息環境が異なります。成虫は5月から8月頃にかけて年2回程度発生します。

食餌植物：アシボソ、チヂミザサ、ススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## ヒメウラナミジャノメ

*Ypthima argus argus* Butler, 1866

交尾：2014.5.10 東京都武蔵村山市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から低山地にかけて生息しています。食草の生える明るく草丈の低い草地のある河川敷や公園などでよくみられますが、市街地ではみられる場所は限られます。飛び方はヒメジャノメと同じですが、より小さく小刻みに跳ねることで区別できます。また、花によく集まることも異なっています。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：チヂミザサ、チガヤ、ススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## クロコノマチョウ

*Melanitis phedima oitensis* Matsumura, 1919



夏型オス：2014.8.23 東京都日の出町 調査員番号 4509

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で、東京には時折飛来して、一時的に発生することもありましたが、2000年頃からは定着しています。平地から丘陵の林縁や林内でみられます。日中は茂みの中や林内で過ごしほとんど飛びませんが、明け方や夕刻など薄暗い時間帯には活発に飛び回ります。成虫は年3回程度発生し、秋に羽化した成虫は越冬して翌春に産卵します。

食餌植物：ススキ、ジュズダマなど（イネ科）

みつけやすさ：★★★

## ウスイロコノマチョウ

*Melanitis leda leda* (Linnaeus, 1758)

夏型オス：2013.7.8 東京都稻城市 調査員番号 1319

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種で、国内では南西諸島と小笠原諸島に定着しています。成虫は移動性が高く、しばしば本土にも飛来して一時的に発生することもあります。DBには稻城市から1件報告され同市からの初記録となります。前翅がだ円形に破れていますが、トカゲなどの天敵にかみつかれた跡かもしれません。本種も日中は茂みの中や林内で過ごしほとんど飛びませんが、明け方や夕刻など薄暗い時間帯には活発に飛び回ります。

食餌植物：ススキ、ジュズダマなど（イネ科）

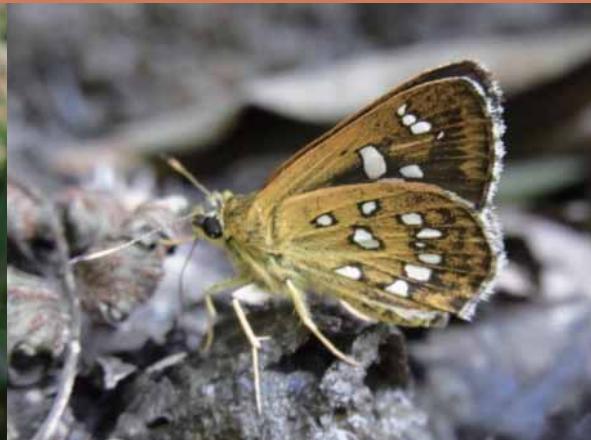
みつけやすさ：★★★★★

## セセリチョウ科 Hesperiidae

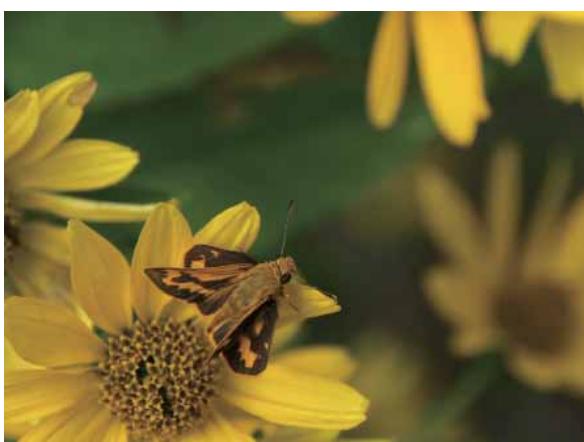
12種確認



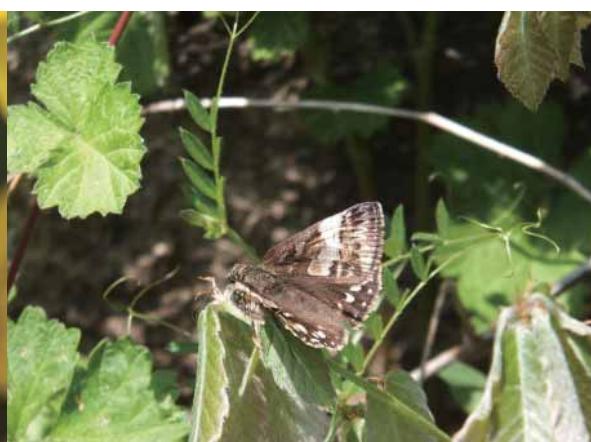
ギンイチモンジセセリ 春型交尾  
2014.4.26 東京都福生市 調査員番号 2434



ホソバセセリ オス  
2011.7.16 東京都八王子市 調査員番号 140



キマダラセセリ 夏型オス  
2014.8.10 東京都足立区 調査員番号 9001



ミヤマセセリ メス  
2014.4.26 東京都八王子市 調査員番号 264



チャバネセセリ メス  
2014.10.8 東京都世田谷区 調査員番号 88



イチモンジセセリ 夏型メス  
2014.8.29 東京都東村山市 調査員番号 1338

## アオバセセリ

*Choaspes benjaminii japonica* (Murray, 1875)



夏型オス：2014.8.6 東京都檜原村 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

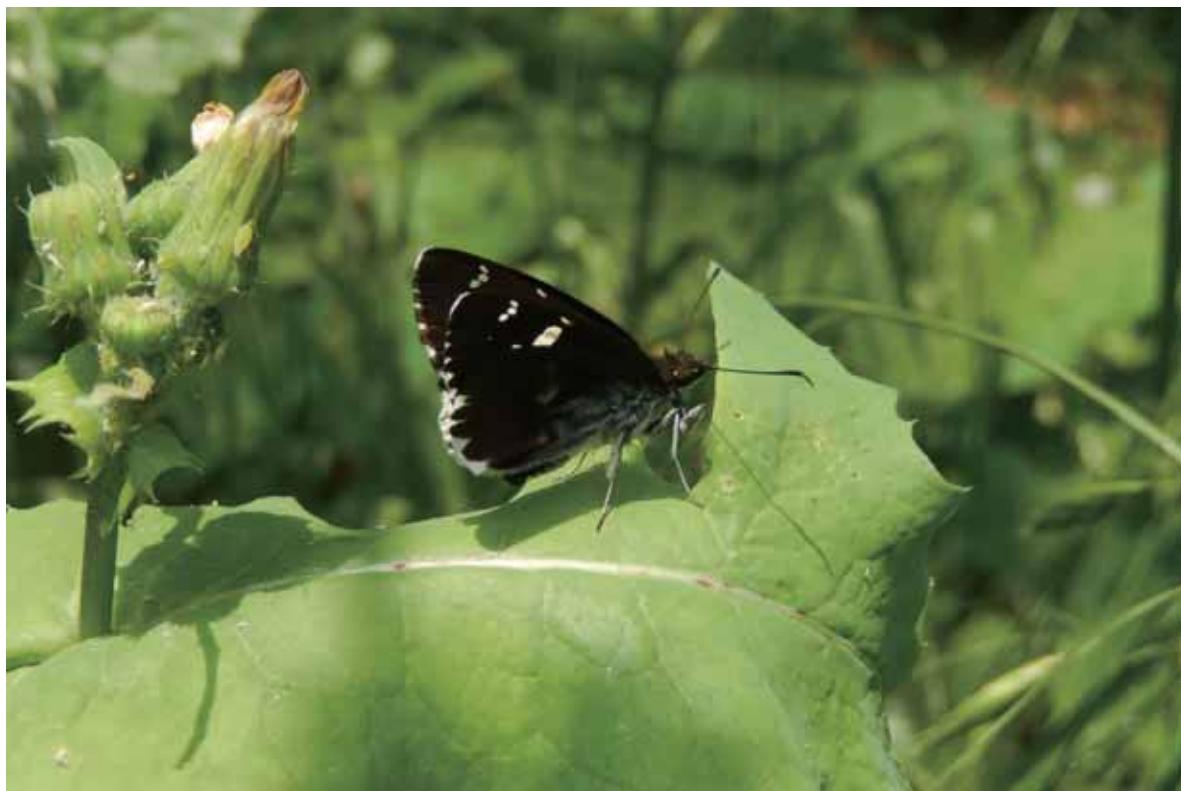
東京では丘陵から山地にかけて生息します。平地にもまれに飛来し食樹があれば発生することもあります。DBには区部からも報告されました。同じ食樹を利用するスミナガシの幼虫は木陰の低い位置を好み、本種は風通しのよい枝先などというようにすみわけているようです。成虫は5月から8月頃にかけて年2回発生します。

食餌植物：アワブキ、ミヤマハハソ（アワブキ科）

みつけやすさ：★★★

## ダイミョウセセリ

*Daimio tethys tethys* (Ménétriès, 1857)



オス : 2014.5.20 東京都小平市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から低山地にかけて生息します。1980年代までは緑の多い場所であれば市街地でもよくみられましたが、近年区部ではほとんどみられなくなりました。DBにも中野区と板橋区から各1件の報告だけとなっています。多摩地区の丘陵などでは今でも比較的普通にみることができます。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：ヤマノイモ、ナガイモ、オニドコロなど（ヤマノイモ科）

みつけやすさ：★★

## ミヤマセセリ

*Erynnis montanus montanus* (Bremer, 1861)



メス：2014.4.17 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

かつては区部や多摩地区の平地にも生息していましたが、都市化の影響によって絶滅し、今ではおもに里山環境のよく残された丘陵から低山地でよくみられます。山地にも生息しています。年1回発生としては最も早い時期に出現する種のひとつで、木々の芽吹きがはじまる頃に羽化します。山地では発生が遅れ、標高の高い場所では6月に入つてもみられることがあります。

食餌植物：クヌギ、コナラ（ブナ科）

みつけやすさ：★★

## ギンイチモンジセセリ

*Leptalina unicolor* (Bremer & Grey, 1852)



春型オス：2014.4.29 東京都小金井市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

ススキやチガヤ、オギなどが茂る草地を好む種です。全国的には減少していますが、東京では河川敷や湾岸埋立地の広々とした草地でみることができます。DBにはおもに多摩川流域から報告されました。成虫は5月から9月頃にかけて年3回程度発生します。夏以降に発生するものは後翅裏の銀一文字が黄色がかかる不鮮明になります。

食餌植物：ススキ、チガヤなど（イネ科）

みつけやすさ：★★★

## ホソバセセリ

*Isoteinon lamprospilus lamprospilus* C. & R. Felder, 1862



メス：2013.7.27 東京都八王子市 調査員番号 137

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

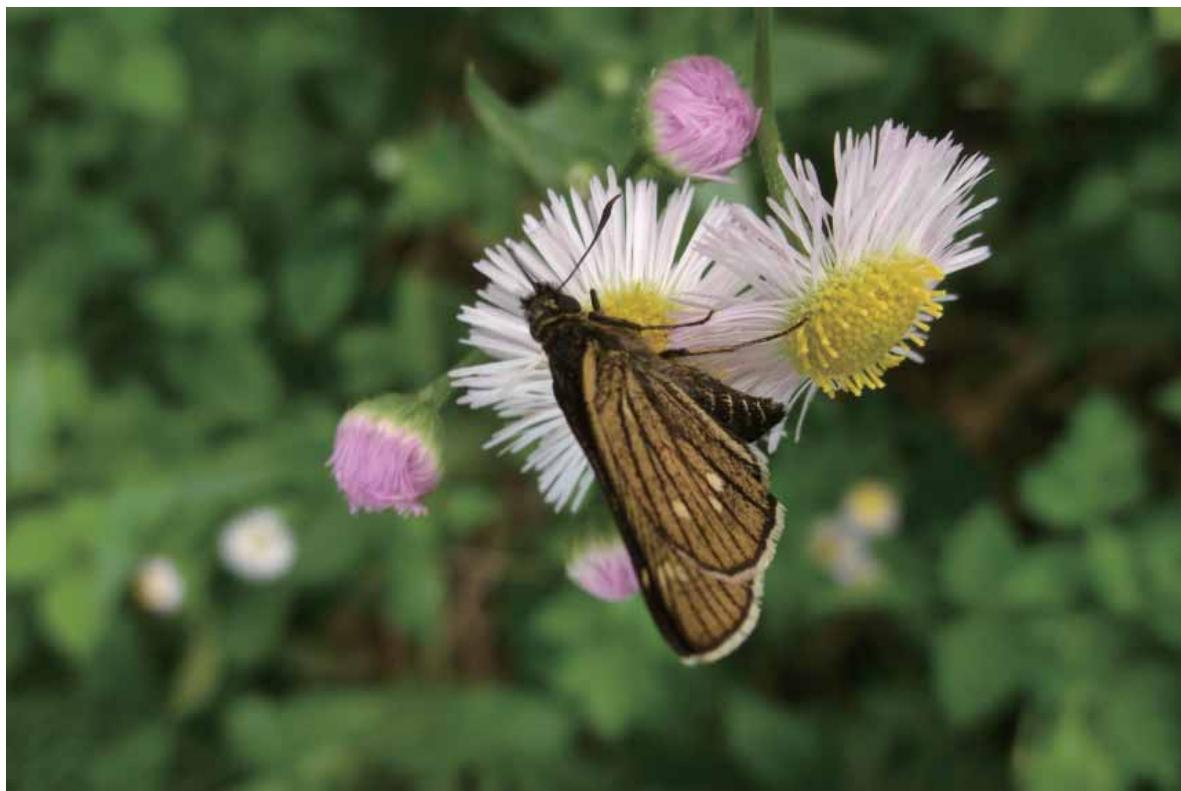
東京では里山環境のよく残された丘陵から低山地に生息しますが、近年ではまれな種となっています。DBにも高尾山周辺から2件報告されただけです。定期的な草刈りによって維持されている小規模な林縁草地を好むため、このような場所がなくなってきたことが減少した理由のひとつと考えられます。成虫は年1回、7月から8月頃にかけて発生します。

食餌植物：ススキ、オオアブラススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★★★★★

## コチャバネセセリ

*Thoressa varia* (Murray, 1875)



春型メス：2014.5.25 東京都板橋区 調査員番号 2439

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地にかけて生息しています。市街地でもまとまった樹林があれば生息していましたが、近年区部ではほとんどみられなくなりました。DBへの報告も板橋区からの1件だけとなっています。丘陵から低山地では今でも比較的普通にみることができます。成虫は5月から8月頃にかけて年2～3回程度発生します。

食餌植物：クマザサ、メダケ、アズマネザサなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## ヒメキマダラセセリ

*Ochlodes ochraceus* (Bremer, 1861)

夏型メス：2014.9.7 東京都福生市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

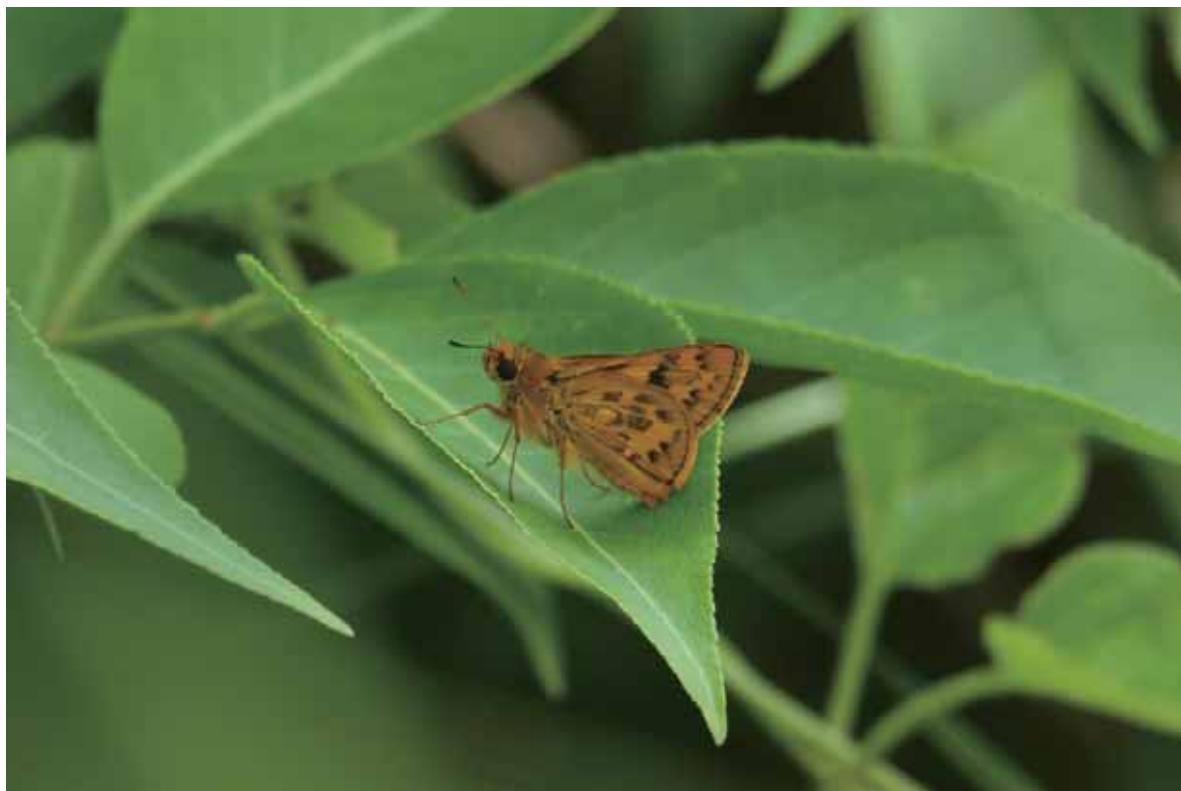
東京ではおもに丘陵から低山地にかけて生息します。林縁の草地や明るい疎林などを好む種です。丘陵の谷戸などに多く、樹林に隣接した河川敷や公園などでみられることもありますが、環境の好みがあるようで、市街地ではまとまった樹林のあるような場所でもほとんどみられません。成虫は5月から9月頃にかけて年2回発生します。

食餌植物：チヂミザサ、アシボソ、ススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## キマダラセセリ

*Potanthus flavus flavus* (Murray, 1875)



夏型オス：2014.6.9 東京都羽村市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から低山地にかけて生息します。ヒメキマダラセセリと同じような環境でみられますが、市街地でもまとまった樹林のある場所であれば比較的よくみられます。DBには区部からも報告されました。成虫は6月から8月頃にかけて年2~3回程度発生します。

食餌植物：アズマネザサ、クマザサ、ススキなど（イネ科）

みつけやすさ：★★

## イチモンジセセリ

*Parnara guttata guttata* (Bremer & Grey, 1852)



夏型メス：2014.9.4 東京都あきる野市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

春から夏の初め頃まではあまりみかけませんが、夏の終わりから秋にかけて個体数が増加し、集団で方向性をもって移動することが知られています。秋には市街地でも多く、最も普通にみられるチョウのひとつです。周辺に緑地がないような場所でもアベリアなどの花があるとよく吸蜜に訪れています。成虫は5月から11月頃にかけて年3～4回程度発生します。

食餌植物：チガヤ、エノコログサ、ススキ、ヨシなどイネ科各種

みつけやすさ：★

## オオチャバネセセリ

*Polytremis pellucida pellucida* (Murray, 1875)



オス : 2014.6.17 東京都福生市 調査員番号 2434

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

東京では平地から山地にかけて広く生息します。林縁などの草地を好み、1980年代までは市街地でも比較的よくみかけましたが、近年区部では全くといってよいほどみられなくなりました。丘陵から低山地では今でもみかけますが、以前よりは少なくなっているようです。成虫は6月から9月頃にかけて年2~3回程度発生します。

食餌植物 : アズマネザサ、メダケ、クマザサなど (イネ科)

みつけやすさ : ★★★

## ミヤマチャバネセセリ

*Pelopidas jansonis* (Butler, 1878)

春型交尾：2014.4.29 東京都小金井市 調査員番号 1310

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

林縁の草地などにも生息しますが、東京ではススキやチガヤ、オギなどが茂る河川敷の広々とした草地がおもな生息地となっています。多摩川流域では、ギンイチモンジセセリと同じ場所でよくみられます。成虫は5月から9月頃にかけて年2～3回程度発生します。

食餌植物：ススキ、チガヤ、ヨシなど（イネ科）

みつけやすさ：★★★

## チャバネセセリ

*Pelopidas mathias oberthueri* (Fabricius, 1798)



オス : 2014.8.31 東京都足立区 調査員番号 9001

確認年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	年						
確認時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月
確認地域	区	北	南	西									

暖地性の種です。幼虫で越冬し、南関東の沿岸地域が越冬地の北限となっています。東京では春から夏の初め頃まではほとんどみられませんが、夏の終わりから秋にかけて個体数を増し、その頃になると市街地でもよくみられます。周辺に緑地がないような場所でもアベリアなどの花があるとよく吸蜜に訪れています。成虫は5月から11月頃にかけて年3回程度発生します。

食餌植物：ススキ、チガヤ、ヨシなど（イネ科）

みつけやすさ：★

# パルシステム東京生物多様性保全の取り組みの意義と今後

2016年1月28日  
生活協同組合 パルシステム東京

1992年ブラジルで開催された国連の地球サミットでは、「開発に関するリオ宣言」、「アジェンダ21」、「森林保全などに関する原則声明」を採択され、気候変動枠組み条約（地球温暖化防止）と生物多様性条約（生物多様性保全）の2つの地球規模の問題に関する署名がなされました。このブラジルサミットに私たちの生協は組合員を送り込みました。その後も、ふーどの米や野菜、農薬削減プログラムの推進や産地交流等、産直事業関連の差別化をはかり、生物多様性の保全に資する農業の推進に一定の役割を果たしてきました。事業においては、生物多様性保全に配慮した原料調達に重点をおいてきましたが、組合員に、自然に対するまなざしを取り戻し、日本の中でも失われている生物の多様性の重要性を知ってもらうことを目標に、2008年度から準備を進め、2009年度より「パルシステム東京生物多様性保全の取り組み」を開始しました。その一環として、東京大学保全生態学鷺谷研究室と東京大学生産技術研究所の喜連川研究室のご協力により「東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト」がスタートし「市民参加の生き物モニタリング調査」に着手することが出来ました。

大都市の生協であるパルシステム東京が、大都市の生活でも起こりつつある生態系異変や気候変動に目をむけると同時に生物多様性と人の暮らしとのつながりを意識する機会を作ることは、持続可能な社会を目指す私たちの理念に合致しており、大変意義のあることでした。

特にこの取り組みの特徴は、専門性のある大学やNPOとの連携によって、普段の暮らしの中から、科学的検証の一端に関わることができること、一人一人の参加が微力ながらも社会的課題解決に貢献できることが実感されるレベルですすめられたことです。また、子どもから高齢の方まで幅広い年齢層が共に楽しめることや、子育てや介護、障がいがある等の理由で家を離れられない方でも、暮らしの場で都合の良い時を選んでチョウのモニタリングが出来ることから、多様な組合員参加活動のひとつとして定着しつつあります。

毎年調査員を募集しますが、約半数程度の方の入れ替わりがあります。2009年度から2014年度までの6年間に、のべ866名が調査員となり、報告されたデータ数は29,126件にのぼりました。データ数の蓄積もさることながら、協働の力により到達したデータの重みに対し、改めて組合員の力量に感嘆するとともにその功績をたたえたいと思います。その調査員とパルシステム東京役職員をご指導いただいた、中央大学保全生態学研究室鷺谷いづみ教授、須田真一先生、東京大学生産技術研究所の喜連川優教授、安川雅紀先生をはじめ各研究室の皆様に心より御礼申し上げます。

プロジェクトは現在も「中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト」として継続中で、データも調査員数も更新しています。また、今後の市民参加の調査活動についても、新たなステージに高めていくことをめざします。

# パルシステム東京生物多様性保全の取り組みの概要

- 組合員の地球環境保全等への社会的貢献
- 組合員の生物多様性保全の重要性に関する学び
- 食物と生態系の密接な関係と商品調達のあり方研究
- 多様な組合員活動として、モニタリング調査を通した環境保全活動体験
- 専門性のある大学・研究機関との連携による環境保全取り組みモデルの構築

3つのテーマ	取り組みの特徴	今後について
① 「中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト」による生き物モニタリング調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都内48市区町村を対象とした調査。</li> <li>●調査員登録した組合員による調査。</li> <li>●調査の精度をあげるために写真をつけることで、組合員調査員の収集したデータが科学的分析の根拠となるレベルに達することを目標にした。</li> <li>●「宿題バッヂリ!夏休み子ども生きモニ」を通した環境啓発。</li> <li>●地方自治体の子供たち等との交流と連携。</li> <li>●まとめ報告会・交流会等の開催でモチベーションの維持をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SATOYAMA イニシアティブを含む持続可能な利用、バイオ燃料、農業、森林、海洋等各生態系における生物多様性の保全及び持続可能な利用に資する活動を目指し、愛知目標の生物多様性の保全、持続的利用をめざして今後も継続していく。</li> </ul>
② 侵略的外来種駆除	<ul style="list-style-type: none"> <li>●侵略的外来種駆除をとおして、地域生態系の保全活動を広げることを目標とした。</li> <li>●光が丘と平井川の2ヶ所の団体との連携からスタートしたが、組合員の希望で多摩川と野川が加わり4ヶ所での活動に増加。</li> <li>●活動団体交流会を開催。地域で、気軽に参加できる生物多様性保全アクションをめざした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれの地域で、暮らしに根ざした環境保全活動として気軽に参加していけるような地域づくりとネットワーク作りを目標に継続していく。</li> </ul>
③ 東京の緑を守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●誰でも参加しやすい午前中2時間程度の見学会として、コンスタントな参加を得る。</li> <li>●身近な都内の緑地などの解説を聞きながら緑が果たす役割と地域の生態系を知り、自然との関係を考える機会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民として地域の緑のメリットを感じて、守れるような感覚を身に着けていただくことを目標に環境教育の一環として継続していく。</li> </ul>

## 生き物モニタリング調査の目的と経過

- 組合員の地球環境保全への貢献となる活動の実践
- 組合員の生物多様性保全の重要性に関する学びを参加型で深める
- 多様な組合員活動として、環境保全アクション
- 一般市民が、調査したデータを研究機関に提供する



2009年5月 第1回生きモニ調査員キックオフ研修会  
(パルシステム東京新宿本部)

## チョウを中心としたモニタリング調査に決定

- 調査方法が確立して生態がよく調べられている
- 見分け方が容易で親しみがある
- 過去のデータが存在しており、比較が可能
- 欧洲でもよく研究されている
- 環境の変化に敏感に反応



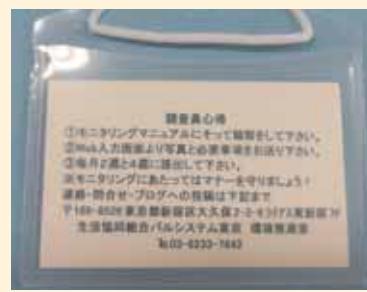
2009年5月 第1回生きモニ研修会モニタリング体験(新宿御苑)

## モニタリング調査等の準備

- 2009年度生物多様性保全の取り組み「市民参加の生き物モニタリング調査」をプレスリリース
- 2009年度:マスコットキャラクター 生きモニこんせんくんを制作・登録  
生き物モニタリング調査員証とモニタリングマニュアルの作成と配布  
生き物モニタリング調査カレンダーの配布  
生物多様性保全の解説DVDの作成



パルシステム東京組合員調査員証(おもて)



パルシステム東京組合員調査員証(うら)



生きモニこんせんくん

## 環境問題の解決には、大変重要である市民参加

- 毎年度5月22日(国連が制定した生物多様性の日)に調査開始
- 毎年度5月中に「調査員向けキックオフ研修会」開催

- 通年で東京大学がWEB上でデータベースを公開  
<http://butterfly.tkl.iis.u-tokyo.ac.jp/>
- 通年で生協が生物多様性保全取り組みのブログを公開  
<http://www.palsystem-tokyo.coop/work/eco/everyone/>
- 毎年度8月に親子向けに「宿題バッヂリ！夏休み子ども生きモニ」開催  
会場は主に東京大学構内、國民公園新宿御苑、都立戸山公園
- 毎年度3月に「まとめ報告会と交流」の開催と表彰状の授与



2014年7月「宿題バッヂリ！夏休み子ども生きモニ」(東大構内)



2010年3月「生きモニまとめ報告会」  
(パルシステム東京新宿本部)

## COP10へ

- 2010年度は名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議のサイドイベントにパルシステムグループとして出展。生きモニデータベースとパルシステムの生物多様性保全に配慮した農業について展示  
パソコンを利用した生きモニデータベースの検索体験や、WEB入力画面の体験を行ってもらうとともに、国産マルハナバチの展示や田んぼの生き物などの展示を行った



2010年10月  
「COP 10会場におけるパルシステムグループ展示風景」

- 2012年度はシャボン玉フォーラムin東京  
「いのちを豊かにつないでいく  
～明日をつくるのは私たち～」  
では「生物多様性保全」を総合テーマとして基調講演及び第2分科会において市民参加の生き物モニタリング調査を発信した



2012年5月  
「基調講演鷺谷いづみ教授」(大田区民ホール・アピコ)



### • 調査員 No.0001 •

生きモニ調査員 1号 2号として参加して、良かつた事①身近な環境に目に向ける様になった事。②名もなき市民の調査データが COP10 に採用された事はとても大きな成果だったと思えた事。③地球温暖化の指標として、ずっと継続していく人達のいるありがたさ。残念な事は、環境活動をやっていた主人が病気になり、データが送れなくなってしまった事。パルシステム東京の前身生協から生協の環境活動に共感していて説明会に参加して第 1 号第 2 号の調査員に参加する事になった私のふりかえり報告です。

### • 調査員 No.0002 •

始めた当初は蝶の種類も 4~5 種類しか知らず、またそれらしか目につきませんでした。調査を重ねるうちに多くの蝶が居ることまた多くの種類が居ることが分かり、そうなると調査も面白くなり、今まで続けることができました。東京には自然が無いように思われがちですが古くからの庭園などが多く残っており、思いのほか多種の蝶が居ることに気付きました。調査に行くぞ！！と構えるのではなく、カメラさえバッグの中に入れておけば行く先々できるということも続けられた一因とも思います。また私たちがやったことがこうして形になったこと心から嬉しく思います。

### • 調査員 No.0039 •

私の報告の 9 割は都立野山北六道山公園のものです。狭山丘陵の南側に広がる里山で、駐車場があるから気軽に行けます。7 年間でコツバメとミドリシジミには一度も出会っていません。アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハは目撃しただけです。去年と今年はオオムラサキの飛ぶ勇姿を見ていません。今後はセセリチョウやシジミチョウを注意深く探していくと思います。

### • 調査員 No.0088 •

比較的、撮影するのが大変だったのが、アゲハの種類で、木の周りや比較的高いところを飛んでいて、しかも、一振り一振りが大きくて、サートといなくなってしまうので、私のデジカメでは撮りきれず、公園などを横切った場合は主人にビデオで撮ってもらいました。また、木の多いところでは、アゲハは巡回していて、戻ってくる事も多いので、しばらく、同じところで構えていて、また、来るのを待ってたりしました。

### • 調査員 No.0137 •

地元小金井市を中心に、親子で調査しました。小金井市は東京ほぼ真ん中にあり、住宅だらけで自然が多いとはいえない所です。しかし、大きな公園や国分寺崖線に緑地があるため、意外に様々なチョウが見られました。思わぬ場所であちこちにウラナミアカシジミがちょこんといたり、6 月にミドリヒョウモンを見つけたり、まとめの会で須田先生が注目！ とおっしゃったヒオドシチョウに出会えたりと、生きモニのおかげで面白い発見がたくさんありました。一方で、途中からホシミスジなど移入種が見られ、年一回の先生方の解説を聞くと、毎年取り組む調査の重要性を感じました。また調査を続けるうちに、目立つのに♂のチョウは集団で吸水したり、怪しげなチョウ影に近づくと秘かに♀が産卵していたなどの行動も気になるようになりました。

### • 調査員 No.0165 •

桜の名所としても親しまれている、染井霊園を蝶の主な観察地にしている。ここは、春の花見、お彼岸の墓参りに人出は多いものの普段は、幹線道路から離れており、静寂です。未舗装の地面が多く、草花が繁茂しています。彼岸前には、一斉草刈りが行われ、春に咲く草花が、秋にもう一度咲くことが蝶の発生を助けているらしく、この霊園は蝶が多い。また蝶の好む草花も多く、樹木ではハナツクバネウツギ、クスノキ、ネズミモチなど、草花では、シロツメクサ、タンポポ、カタバミ、ハタケニラなど。ボランティアによる花壇もあり、草花の少ない夏場でも花壇に蝶が寄ってきます。

### • 調査員 No.0207 •

家の近くには、大きな公園や川があり、自然に恵まれています。朝夕、犬の散歩に行くので、その時見かけた蝶の情報を、送らせて頂いています。いつもカメラを持ち歩いていますが、ピントの合った写真を撮るのは、なかなか大変です。特に、アゲハの仲間は、飛ぶ速度も速く、難しいです。雨上がりの湿気の多い日などは、動きが鈍いような気がしますが…。また、オスとメスの見分け方が難しいので、参考資料などがありましたら紹介して頂けますと幸いです。今後とも、宜しくお願い致します。





### ・調査員 No.0287・

学生時代のサークルで蝶を追いかけていました。定年後このような活動に出会い、若い時の経験を生かして楽しんで調査に参加することが出来ました。ありがとうございました。

### ・調査員 No.0279・

最初のころは休日に近所の公園でチョウを探しましたが中々撮れなくて空振りが多くありました。等々力店に用事で行けばお昼休みに等々力渓谷に行ってみたり、たつみ店二階担当時は近くの公園でチョウを追いかけました。2011年に東新宿に本部が移ってからはマイフィールドが戸山公園になりました。通勤の途中や休憩時間に行くことが多く、蚊除けのスプレーをして日焼け防止の帽子は必需。出勤前と退勤後の夕方では違うチョウにあえる戸山公園が楽しみでした。最初はただの「チョウ」で名前がわからず、そんなに珍しいチョウでもないのでNETで検索して名前がわかると嬉しくなりました。それでも間違っていると…残念でした。チョウのとまっている花の名前も教えていただきました。

### ・調査員 No.1310・

私がモニタリング調査に参加したのは、開始2年目からです。それまでは蝶に关心があるわけではなくどちらかと言えば苦手でしたが、調査をすることに私たちのまわりには多くの蝶や、その他の昆虫が暮らしていたのだと気づきました。観察していると、種類ごとに異なる形や色、模様が「何のためなのだろう」「何故なのだろう」、「この蝶は何を食べどのように暮らしているのだろうか」など次から次へと出てくる疑問が、調査をすることに今まで気づかなかつたことも少しずつ見えてきてそれがとても楽しかったです。また、姿を見ても写真が撮れず悔しい思いをしたり、思うような写真が撮れずに今度こそはと思った事が調査を継続できた理由の一つだと思います。そして、この6年間で気になったことも。身近な地域で緑が年々減少していることです。山野草が植栽されていて多くの種類の蝶が見られた小さな公園が道路建設によりなくなり、畑や空地が住宅や店舗に変わっています。その影響なのか、今まで容易に観察できた蝶がほとんど見られなくなつたと感ずることもあります。変わらないように見えても、環境は少しずつ変化しているのだと実感しました。この6年間の調査報告が少しでもお役に立てたなら幸いです。先生方、事務局の皆さんお世話になりました。ありがとうございました。

### ・調査員 No.109・

調査に行くごとに蝶の名前や、いつもいる場所がわかるようになりました。道路の整備などで草が刈られたりするとそこにいた蝶たちは、もう見ることができなくなり気がつかないところで、日々、自然に大きな影響を与えて暮らしているのだなと感じました。鷺谷先生の基調講演のお話も普段聞くことのないお話ばかりで興味深かったです。



### ・調査員 No.1370・

私はチョウについてカメラについてPCについてまるでわからないのにただ調査のお役に立てるかもというだけで参加させていただきました。場所は狭山公園です。チョウに会うために心がけたのは人が心地よい時と場所、日だまりを探すこと、地面から吸水できる嵐の後や雨上がりなども行くようにしました。(夢中で吸蜜、吸水中はカメラが下手な私でも撮ることができるので) ただ珍しいチョウを撮ったことはなくあまりお役には立てなかつたのですが、雨上がりの午前中沢山のヒカゲチョウが羽を広げて日向ぼっこをしている場面、晚秋の南斜面いっぱいに咲いているコセンダングサの枝ごとにキタテハが止まっていた場面は、思い出すたび輝いていて胸の中が暖かくなります。コミシジやコツバメと出会える場所を見つけそれを励みに出かけたものでした。モニタリングのお陰で狭山公園が嬉しい場所になりました。ありがとうございました。8月足首骨折以来休んでおりますが、ガイドブックを楽しみに待っています。

### ・調査員 No.2439・

2011年に始めて5年目になります。池袋から3キロほど北西にある団地住まいです。もともとは農村地帯で緑地の多い場所でしたが東京オリンピック前後から急激に都市化が進み環境が激変しました。それでも団地内と隣接する国の施設には樹木や地面が多く、蝶々もよく見かけますので、私は“団地で日々見かける蝶々の移り変わり”を記録することを意識して活動しています。最初はアゲハチョウやツマグロヒョウモンなど目立つ蝶しか見えていませんでしたが、だんだんにセセリチョウやシジミチョウ、ヒカゲチョウ等の地味な蝶に気付くようになりました。昨年はダイミョウセセリとコチャバネセセリを花壇で見かけて報告しましたら、これらは最近23区内ではほとんど見かけない種類だという事を教えていただき驚きました。お隣の団地は建替えが進行中で、緑地がどんどん減ってきています。蝶の居場所が益々無くなりそうで、複雑な気分です。





• 調査員 No.2452 •

チョウモニタリングに毎年参加して、歩く習慣が身につき、花や、チョウに気付くようになりました。常にデジカメを持参し、チョウを撮る技術も年々上達した様に感じています。良い事づくしです。前年の記録と比較も意識して、同じ公園を訪ねてみました。1. 日比谷公園・噴水近くの花壇：キタテハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、イチモジセセリ、アゲハ、キアゲハ、モンシロチョウ等 2. 世田谷フラワーランド：バラのトンネルや、ハーブガーデンなど四季折々の花が楽しめます。花の種類が多くチョウの種類が豊富です。アゲハ、ジャノメチョウ、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウ、シジミチョウ、モンキチョウ等。3. 東久留米・落合川と南沢湧水群：東久留米市のHPの《湧水ガイドマップ》を参考にお弁当持参で天気が良い日に遠足気分で毎年行っています。チョウ、水鳥、カエル、水生植物に会えるほか公園＆神社仏閣巡りの散策コースはお奨めです。夏の猛暑や、ゲリラ豪雨… 地球にやさしい環境を意識しているこの頃です。

• 調査員 No.4509 •

多様な地形を基盤とした自然豊かなあきる野市在住で、親子で継続的に直接生きものに関わる経験をしたいと思い、参加を決めました。特別昆虫に詳しいわけではなく、初めは図鑑とにらめっこ。網で捕まえてじっくり見るわけですが、捕まえるのも苦労の連続…。決して理想的な調査員ではなく、可能な場所と頻度で報告させてもらっていますが、とにかく記録を残すことに意義がある、専門家のバックアップがついているという安心感の下、挫折せずに4年間続けてきました。気温が上がった春の日に草地で乱舞するウスバシロチョウ、水たまりで羽根を輝かせながら吸水する数匹のミヤマカラスアゲハ、初夏の夕方、雑木林に探しに行って会えたアカシジミとウラナミアカシジミなど、この調査に参加していなければ知ることは無かったでしょう。今では日々、何処にいても蝶が気になり、天気、気温や季節による変化にも目が向くようになりました。蝶を入り口に虫の世界の面白さにも気付き、間違ひなく日常生活が彩り豊かになっています。子ども達は、芋虫を愛で、捕虫網使いを極め、知的好奇心のアンテナを高く伸ばして成長しており、将来、何らかの形で身近な自然に恩返ししてくれる期待しています。川原や雑木林で会いたい蝶がまだまだいるので、生息環境が失われないよう一市民として見守りながら、可能な限り調査を続けていきたいと思っています。

• 調査員 No.0264 •

ある時はバイクで、またある時は電車を乗り換えて観察に向かいました。慣れない撮影で心が折れることもありました。今では「生きモニ」が生活の一部になり、この先もきっと自然豊かな環境の地元を中心に観察を続けていこうと思っています。

• 調査員 No.4515

チョウの写真を撮るのはなかなか難しい。カメラを向けるとふわりふわりと飛んでいってしまう。じっと止まっていて、近づいてもそのまま動かさないでもらいたい。と何度も思ったものか。ある朝、じっと止まっていた、近づいてもそのままで動かないという理想的な状況がやってきました。雨戸を開けると縁側に置いてあったプランターのパセリの上に一頭のヤマトシジミが眠っていました。たぶん眠っていたと思う。ほんとうに気持ちよさそうにパセリをベッドにして横たわっていたから。太陽が昇り暖かくなってきたら、飛び立っていました。その間、写真を撮ったりながめたり。またどうぞ、うちのパセリでよかつたら夜をすごしに来てください。そのパセリにはキアゲハの幼虫がついていて、以前の私なら駆除するのだけれど、そのままにしておいたら、人間が食べる分のパセリもその幼虫は食べてしまってさなぎになりました。春も終わり近くヴィオラを片付けようとしたら、ツマグロヒョウモンの幼虫を5,6頭発見。“片付けられない！”もうヴィオラはヨレヨレで葉も少なく この幼虫の食料としてまかなえるか心配でしたが、全員 無事にさなぎとなり、チョウとなって旅立ってきました。庭のユズの木には夏の間、毎日アゲハ♀がやってきて、産卵します。ユズの葉は幼虫に食べられて氣の毒ですが、がんばっています。全部の幼虫が育つだけでなく、小鳥に食べられたり、さなぎになってしまってうまく羽化できないのもいて、なかなか難しい。9月の末にさなぎになったのはそのまままで越冬するようです。来年の春が楽しみ。小さな庭ですが、チョウが結構来ているのを「生きモニ」をするようになって、知りました。今まで来ていたのでしょうかが気づきませんでした。葉に穴が開いたり、片付かなくてもチョウが安心できる庭にしたいと思っています。今ではだいぶチョウの写真を撮るのもなれています。それでもやはり難しい！お願いだから写真を撮る間だけでいいからじっと動かないでね。

## 参考文献

- 倉地正・栗山定（編），2007. 東京都の蝶類データ集「グループ多摩虫」30周年記念，187pp.
- 白水隆，2006. 日本産蝶類標準図鑑，学研教育出版，336pp.
- 長瀬隆夫，2004. 高尾・陣馬山の蝶，けやき出版，133pp.
- 西多摩昆虫同好会（編），1991. 東京都の蝶，けやき出版，200pp.
- 西多摩昆虫同好会（編），2012. 新版東京都の蝶，けやき出版，198pp.
- 西多摩昆虫同好会，2014. 東京都蝶類データ集2014「新版東京都の蝶」資料編，295pp.
- 仁平勲・遠藤茂・鹿戸衛（編），1995. 多摩虫別冊I八王子市の蝶，43pp.
- 日本チョウ類保全協会（編），2012. フィールドガイド日本のチョウ，誠文堂新光社，327pp.



モンシロチョウ 夏型メス  
2014.8.7 東京都中央区  
調査員番号 9001



モンキチョウ 夏型オス  
2014.8.23 東京都足立区 調査員番号 9001

## ネイチャーガイド 東京のチョウ

2016年3月4日発行

監修：鶯谷いづみ・喜連川優

データベース解説：安川雅紀・喜連川優

チョウ解説：須田真一

写真選定：桶田太一

編集・アートデザイン：須田真一・

発行：生活協同組合パルシステム東京・中央大学  
理工学部人間総合理工学科保全生態学研究室・  
東京大学生産技術研究所喜連川研究室

表紙写真：モンシロチョウ 夏型オス  
2014.7.6 東京都足立区 調査員番号 9001



生活協同組合 パルシステム東京

中央大学理工学部 保全生態学研究室

東京大学生産技術研究所 喜連川研究室

地球観測データ統合・解析システム (DIAS)